

2015.1/ No.143

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

濃いつ! 阪大 - 醸造工学編 -

「マッサン」と
大阪大学



Contents

Topics

- 03 オックスフォード大学、来たる。
- 04 第3期中期目標期間を見据えて
— 22世紀に輝く「世界適塾へ」—
平野俊夫総長 平成27年年頭挨拶

14 濃いっ! 阪大1 — 醸造工学編 —

「マッサン」と 大阪大学

22 濃いっ! 阪大2 — 男女共同参画編 —

これぞ、「多様性」の源泉 阪大の男女共同参画!!

～「知ってる?知らない?」「意外にやってる!?!いや、まだまだ?」

28 濃いっ! 阪大3 — 学生編 —

糸谷哲郎さんに聞く

- 30 役員室だより
- 36 表彰・受賞等
- 38 人事／訃報
- 39 教職員インタビュー
- 40 阪大の組織 AtoZ
- 42 阪大ほっとニュース
- 45 Information



【表紙写真】
竹鶴正孝 『ウイスキーと私』
— 1972年(非売品)
現在NHK連続テレビ小説で放映中の「マッサン」の主人公・竹鶴正孝と大阪大学は深い関わりがあります。写真は竹鶴正孝の自伝で、ジャパニーズウイスキーのはじまりを技術者の立場からつづったものです。

表紙写真撮影
クリエイティブユニット 准教授 伊藤雄一



Topics

オックスフォード大学、来たる。

英国の名門校、オックスフォード大学のサッカー部が大阪大学を来訪し、サッカー部と交流試合を行いました(12/16)。今回の来日は45年ぶりで、サッカーを通じて日本の大学との友好関係を深めることを目的としたものです。会場のすいらん(吹田キャンパスグラウンド)には学生、職員が集まり、両校に熱い声援を送りました。試合結果は、Facebook をご覧ください。(www.facebook.com/OsakaUniversity)



第3期中期目標期間を見据えて



大阪大学会館

—22世紀に輝く「世界適塾」へ—

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年の年頭挨拶では、2014年を「世界適塾」元年とし、2031年に大阪大学が創立100周年を迎えた時、「世界適塾」として世界でトップ10に入る研究型総合大学になるという夢を語りました。さらに第1回世界適塾構想会議総会を7月に開催し、この総会のもとに基本構想などのワーキンググループが組織され世界適塾構想実現に向けての議論が進んでいます。第2回世界適塾構想会議総会を1月21日に開催する予定です。「世界適塾」の理念は「学問による調和ある多様性の創造」により心豊かな人類社会の発展に貢献することです。世界には言語、人、習慣、文化や宗教などの多様性が存在します。この多様性は革新的なイノベーションの創出や心豊かな人類社会の営みにとって不可欠です。一方多様性は負の側面として様々な障壁や紛争をもたらします。人類の歴史は多様性による発展と多様性がもたらす対立や戦争の歴史でもあります。人類歴史の中で過去に

例をみない次元でグローバル化が進む現在の国際社会では、多様性のもたらす負の側面が増々強くなり、様々な対立が世界に蔓延しつつあります。グローバル化が臨界点までに達すると考えられる21世紀は多様性の爆発の世紀になる可能性すらあります。21世紀のグローバル化社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが人類の発展にとり不可欠だと思います。

今の私の思いを俳句にするとこうなります。

去年今年世世を継ぐ夢空翔る

調和ある多様性の創造

大学は「学問の府」です。教育や研究活動により社会に貢献するという大学の役割は過去、現在、未来において不変ですが、21世紀の大学には更なる役割があるのではないかと思います。それは「学問による調和ある多様性の創造」によりグローバル社会に大きく貢献する

ことだと思います。学問は芸術、スポーツや経済活動等と同じく人類共通言語です。これら人類共通言語は様々な障壁を乗り越える大きな力を有します。学問を介する人材交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。学問を介する世界規模での人材交流を今まで以上に推進する必要性がここに 있습니다。大阪大学は世界適塾として、心豊かで平和な社会を実現するために自らの力を磨き上げ、学問を介して世界に貢献していかなければなりません。そのためにも学問レベルをあげて「世界トップ10」に入るような大学にならなければなりません。

大学の力の源泉は人や部局の多様性であり、研究や教育の多様性です。個の力の最大化を成し遂げることが大学発展の原動力です。しかしながら、学問の変遷やその多様性の増大に加えて、少子高齢化や国立大学法人運営費交付金の削減など、大学を取り巻く環境は大変厳しいものがあり、大学全体の力の最大化も図る必要があります。国立大学の法人化以降、国から大阪大学に交付された一般運営費交付金は、統合前の大阪外国語大学分を含めて、平成16年度の420億円から、平成26年度の384億円と36億円減少しました。これを平成26年度の部局配分額で例えますと、理学・医学・工学研究科の3部局への配分を合計した額になります。そして、第3期中期目標期間が始まる平成28年度からは、運営費交付金の配分方式が大学の存亡すらも左右する程に競争的になることが予想されています。昨年末の12月17日に内閣総理大臣主宰の産業競争力会議のワーキンググループにおいて、第3期中期計画を見据えた大学改革の基本的な考え方が、下村文部科学大臣より具体性と現実味をもって明示されました。その内容は昨年末に各部局長に資料を配布しました。また既に政府公式ホームページなどを通じて周知されています¹⁾。注目すべきは、大学を3類型に分類したうえで、運営費交付金の3～4割を競争的に配分する計画です。さらにごく少数の大学を絞り込み特定研究大学(仮称)に指定する構想も盛り込まれています。本学が今後進むべき基本的方向性を考えるにあたり、極めて重要な決断を迫られる内容が多く含まれています。すなわち、今年1年は単なる1年ではなく、大阪大学の今後10年あるいは100年の道筋を決める大変重要で特別な1年であります。しかしなが

ら、このような変化の激しい状況を千載一遇のチャンスと捉えることもできます。決して短期的な視野に立つのではなく、今こそ中長期的な視野に立ち、わたしたち構成員全員が阪大の将来を真摯に考え、如何にすれば大学全体の力の最大化を図ることができるかを真剣に考え、譲るべきは譲り、お互いが協力しあい、英知と力をあわせ、個の力の最大化と大学全体の力の最大化を志向することにより、文字通り大阪大学の夢が実現される好機とも考えることができます。そのためにもわたしたち大学構成員全員が夢や価値観を共有し、一人一人の英知と力を結集する必要があります。

昨年を振り返り今年を思う

昨年は創立100周年を見据えて大学のあるべき姿を考える意味で世界適塾構想会議を発足しました。そして総会の下に基本構想、キャンパス構想、病院構想、基金、第3期中期目標・中期計画といった分科会を設置して、様々な構想を検討していただいているところです。

平成24年に大阪大学未来戦略(2012-2015)を策定し、様々な取り組みを行なってきました。このタイミングで、政府は、学問分野のプロジェクト支援ではなく、大学全体の教育研究機能強化の取り組みに対する支援を重視する政策を全面的に打ち出しました。そういった方向性を先取りする形で本学は、平成24年度に「国立大学改革強化推進補助金」を獲得し、平成23年度に立ち上げた未来戦略機構による部局横断的な教育・研究マネジメントに積極的に取り組んできました。平成25年度には「研究大学強化促進事業補助金」を獲得し、国際ジョイントラボを創設するなどの研究力強化に取り組んでいます。さらに、平成26年度には「スーパーグローバル大学創成支援」を獲得し、「世界適塾」構想の実現のために必要なグローバル化、教育改革、マネジメント強化等の推進体制の整備に取り組んでいます。そして、年俸制やクロス・アポイントメント制度導入による人事・給与システムの一層の弾力化などの本学の取組姿勢に対して、「「学長のリーダーシップの発揮」を更に高めるための特別措置枠」として特別運営費交付金が追加配分されました。

こういった補助金を獲得したことで、大阪大学未来戦略機構も順調に発展し、現在5つの教育部門と4つの研

1) <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/wg/innovation/dai4/siryou.html>

究部門が部局横断的な教育研究活動を実施しています。また、教育研究活動を分析・検証する機能と、戦略的提言機能を強化するため、機構内の戦略企画室にIRチームを設置し、IRを総合的に行う体制を構築中です。さらに、平成25年に開始しました国際共同研究促進プログラムによる国際ジョイントラボも現在13カ国からの著名な研究者が参画した22のラボが活動をしています。またクロス・アポイントメント制度も順調に経過し、昨年末時点で外国人9名を含む12名がこの制度により国内外から大阪大学の教育研究活動に参加しています。

昨年は新棟建設や耐震改修工事も順調に経過しました。すなわち、最先端医療イノベーション棟、文理融合型研究棟、緊急時対応および学生支援施設である多目的倉庫、サイバーメディアITコア棟、生命システム棟や総合図書館自動書庫棟が完成し、超高圧電子顕微鏡新棟もほぼ完成しました。また、大規模改修としては、国際交流会館吹田分館、吹田留学生会館、豊中弓道場、法経講義棟、核物理研究センター本館、社会経済研究所A棟、工学研究科M1棟、総合図書館本館や総合図書館書庫棟、そして適塾といった施設の改修が完成しました。さらには、3キャンパスでのライフライン整備を年次計画に基づき実施しました。また、虎の門には東京オフィス、理化学研究所播磨事業所には大阪大学未来戦略光科学連携センターが開設されました。

そして、後ほど紹介しますように今年もいくつかの建物が新設あるいは改修されます。このように世界適塾に向かって、教育研究環境は順調に整備されつつあります。

本学学生の活躍も目立ちました。文部科学省が主催する事業、「サイエンスインカレ」では2年連続で全国最多の5組が受賞しました。また、「トビタテ!留学JAPAN」では女性7人が選ばれ、元気な「阪大なでしこたち」と話題になりました。ショセキカプロジェクトによる学生手作りの本「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」はベストセラーになりました。大学院生の糸谷君はプロ将棋の世界で竜王という頂点に立ちました。このような阪大生の活躍は、大阪大学の元気さ、未来の明るさを象徴しているようで、今年もいろんな分野で学生たちには是非チャレンジし、夢を叶えてほしいと期待しています。

また、忘れてはならないのが男性・女性といった性別にかかわらず、能力や個性を最大限発揮できる大学づ

くりの必要性です。すべての構成員の多様性は不可欠であり、大阪大学を男性・女性にかかわらず優秀な人材の宝庫とするために、昨年10月に男女共同参画担当の副学長を任命しました。今年をその本格始動の年とするために、是非、皆様方の御協力をお願いします。

では、平成27年からどのようなことを具体的に実行しようと考えているのかについてお話したいと思います。

教育改革

世界に通用する人材を育成するために各学部・研究科で定めた教育目標およびディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿った新カリキュラムを作成し、平成29年度より開始する予定です。また、海外との学生交流を盛んにするとともに、集中型・参加型の授業によって理解をより深められるよう、クォーター制(3学期制)を導入する予定です。さらに、部局ごとに定めたアドミッション・ポリシーに相応しい優秀な人材を獲得するために、グローバルアドミッションズオフィス(GAO)を中心として高等学校における課題研究などを評価に取り入れる世界適塾入試の準備を行います。これらの新カリキュラム、世界適塾入試、クォーター制は部局長会議や教育改革推進会議などでご議論いただき、平成29年度実施を目指して、東島理事を中心に各種委員会において具体的な検討をお願いしているところです。皆様方には移行にあたり大変なご苦勞をお願いすることになりますが、世界適塾を目指すためには重要な改革ですので、世界的な視野に立ち是非ともよろしくご協力のほどお願いいたします。

学部の正規留学生を増やすために、海外在住私費外国人留学生特別入試を平成28年度より実施します。この試験に合格すると10月から3月まで大阪大学において集中的に日本語の授業を受け、4月からは他の学生と同じように日本語で授業を受けます。大学院の正規留学生を増やすために、CAREN(Center of Asian Research and Education Network)の英語コースを中心にダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー制度を拡大します。

日本人学生の海外留学を増やすために、実践英語力強化講座を提供するとともに、海外留学の経済的支援を行います。また、学部英語コースであるインターナショナルカレッジの英語による教養教育を日本人学生にも開

放し、留学生と日本人学生が交流する機会を提供します。さらに、昨年12月に誘致したカリフォルニア大学大阪オフィス(UC/UCEAP大阪オフィス)などを活用して双方向の留学や教員の交流を促進します。またカリフォルニア大学の助言を得て大阪大学サマースクール開設への準備を開始します。

教育改革を迅速に行うために、昨年、各部局の教育担当副研究科長からなる教育改革推進会議を設けましたが、これに合わせて教育関係の組織を整理再編して全学学修イノベーション機構を設置し、学部・大学院の教育改革を一体的に行う予定にしています。

また、海外に向けて大阪大学の授業のインターネット配信をedXのプラットフォーム上で今春から開始する予定です。

大阪大学の学生に早い段階で海外体験させるために、昨年は総長裁量経費で300人を超える学生の海外派遣を支援しました。各部局におかれましても積極的に海外派遣プログラムを開発していただくようお願いいたします。さらに、外国語学部を持つ唯一の研究型総合大学である大阪大学でしか育てられないような人材育成プログラムを開始し、外国語学部における24種の言語と他の10学部の専門性を身につけた240種類の人材を育てることをめざします。まずは、外国語学部の学生が文学部・人間科学部・法学部・経済学部の4学部の科目を履修できる、マルチリンガル・エキスパート養成プログラムを平成27年に開始する予定で準備を進めています。

また、未来戦略機構で支援してきた認知脳システム学研究部門などの異分野創発新学術領域や阪大の誇る先進学術領域を牽引する教員をコアとした、世界に羽ばたく飛び抜けた次世代研究者を育てるための卓越大学院である世界適塾大学院(仮称:新学術創造研究科)の平成29年4月設置を目指して、昨年12月に新研究科設置検討委員会を設置しました。この委員会の下に副学長を部会長とする基本構想部会を設置し全学的な検討を行っていきます。全学的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。

研究推進

明日の大阪大学を支える若手研究者から現在の大阪大学を牽引している研究者まで、本年も包括的に支援し

ていきたいと考えています。

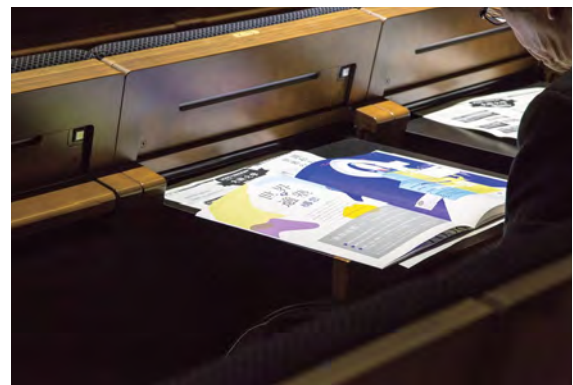
特に、若手研究者の支援策として、キャリアアップ支援プログラムの充実を検討していきます。39歳以下の若手100名を目標として、研究費の面から支援するプログラムで、科学研究費補助金に惜しくも採択されなかった教員に対して、1年間大学独自財源で支援する計画です。研究の多様性を確保するとともに、少しでも多くの研究の芽を育てたいと考えています。

未来戦略機構の研究推進部門には創薬、認知脳や光科学などの3部門に加えて、昨年10月に、「グローバルヒストリー研究部門」を立ち上げました。大阪大学をグローバルヒストリー研究の国際的ネットワークの中核に位置づけ、大阪からの国際的な情報発信と人材交流を推進していきたいと思います。引き続き、未来戦略機構の研究部門の充実に努めていきます。

研究環境のグローバル化の中核として国際共同研究促進プログラムにより開設された国際ジョイントラボを近い将来100研究室に増やすことを目指し、プログラムを推進していきます。大阪大学のキャンパスで、海外の研究者と共に最先端の研究をすることは、研究者のみならず学生諸君にとっても、草の根からのグローバル化ならびに研究の発展につながるものと期待しています。特別教授制度、評価連動型年俸制、クロス・アポイントメント制度等、本学が推進している柔軟な人事給与制度との組合せにより、各部局では、このプログラムを積極的にかつ有効に利用していただければと思います。

産学連携・情報化推進

法人化と同時に大学の実質的な産学連携もスタートしました。10年を過ぎた今、オープンイノベーションを目



的とする新たなステージになっており、共同研究講座・協働研究所制度や知財戦略などの在り方もこの変化に対応する必要があります。

平成25年にスタートしたCOI事業は、20年後の社会のニーズ予想をしたうえで、その課題を解決するためのイノベーションが要求されています。加えてリーダーは外部から起用するという新規なプロジェクトとなっています。人間力の向上をテーマに、多数の企業と異なる分野の研究者が協力する形で進めています。

今年は、産業競争力強化法の改正にもとづく「官民イノベーションプログラム」が本格的にスタートします。大阪大学に割り当てられた総額200億円の資金をもとに10年間活動します。その中心として、昨年末に大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社を、100%出資子会社として立ち上げました。国立大学にとって初めての出資事業であり、大学の技術・知恵を基盤として、民間とも協力しながらベンチャーファンドを立ち上げ、新しい産業を生み出すという大きな社会的使命を持っています。大阪大学のイノベーションマインドを高める絶好の機会とも捉えています。多くの教職員の方々の提案・協力を期待しています。

教育・研究・大学運営を支援するための、情報通信ネットワークシステムが、今年から大幅な再構築の時期に入ります。サービスの高度化と同時に、いかに無駄なく効率的・統一的に構築を進める必要があります。関連部署の密な相互協力で進めていきたいと考えています。

国際戦略

「国際交流から国際戦略への転換」を図るべく、「国際戦略推進機構」を創設し、新たに策定する国際戦略に基づき、全学的な取組みを着実に推進します。

昨年4月には海外拠点を見直し、「北米センター」、「欧州センター」、「ASEANセンター」、「東アジアセンター」を地域の中心として位置づけました。また、学内においては、「グローバルキャンパスの早期実現」を推進するための一環として、豊中キャンパスにカリフォルニア大学(UC/UCED)のオフィスを昨年末に新しく開設しました。

これらの新たな基盤となる施設を活用するとともに、多国間・二国間国際ネットワークや2013年度から開始した国際ジョイントラボや本学が既に締結している多数



の大学間交流協定や部局間交流協定を有機的に連携させ、「世界適塾」の確立を進めていきます。具体的には、環太平洋大学協会(APRU)、東アジア研究型大学協会(AEARU)、日英大学連携(RENKEI)、日独6大学コンソーシアム(HeKKSaGOn)などの多国間・二国間ネットワークによる学長会議やワークショップの開催やプロジェクトを企画、実施していきます。

特に、APRUについては、「University as an Agent for Global Transformation」として、21世紀における大学のミッションを再考し、大学の役割を考えるとともに、日本における高等教育について理解を深める機会を提供すべく、45大学の学長や関係者が参加する年次学長会議を6月に本学がホストとして大阪で開催し主導的な役割を果たします。

柔軟な人事・給与制度の構築

優秀な人材は大学にとって最も重要な資産であり、本学では人事に関するシステム・運用の柔軟化を積極的に進めてきました。

昨年は、国際的に優れた研究者等を対象とした評価連動型年俸制やクロス・アポイントメント制度を新たに導入しました。さらに年俸制に関しては、主に新規採用教員を念頭に置いた新たな制度をこの4月採用者から適用し、研究者の流動化など世界の趨勢に適時・適切に対応していきます。

また、全国に先駆けて導入したクロス・アポイントメント制度については、各部局の理解も進み、特に外国人教員への適用に大きな研究上のメリットが認められます。今後とも様々な活用方策・支援策を検討し抜本的に拡充する予定です。

このほか、来年度から教員系・事務系に次ぐ第三の職種としてURA(リサーチ・アドミニスレーター)を制度化し、専門的な調査成果を用いて本学の教育研究活動の基盤をより強固にします。

このように近く予定しているものも含め人事に係る第一段階の改革施策は概ね提示しましたが、まだ工夫・改善の余地はあると考えます。各部局におかれては、こうした制度を積極的に活用して優秀な人材の獲得・育成に取り組んでいただくとともに、人事や組織運営に関する建設的なアイデアを積極的に提案くださるようお願いします。

財務面の検証と新たな財源確保

平成28年度から始まる第3期中期目標期間においては、一般運営費交付金の3割から4割が競争的に配分される方向で検討が進んでいます。大阪大学のみならず全国の国立大学は今まで以上に競争的環境にさらされます。このような運営費交付金の変化に対応できるように、昨年ワーキンググループを設置して対応案を策定いたしました。部局長の皆様にも対応案に賛同いただき、当面の平成27年度の学内予算の配分方法を変更させていただき運びとなりましたが、今年1年かけて第3期中期目標期間中の学内予算配分の抜本的なあり方を皆様と共に検討し、来る大競争時代に備えたいと考えています。

大学の教育・研究のための財源を確保するためには、大学構成員の一人一人が科学研究費補助金などの外部資金を獲得していくことがこれまで以上に重要となります。大学執行部でも、国立大学改革強化推進事業費、研究大学強化促進事業費、学長のリーダーシップ特別経費やスーパーグローバル大学創成支援事業などの新規の競争的資金を獲得してきました。これら新たに獲得した財源により、世界トップ10に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策等、世界適塾構想実現のための様々な支援策を実行してきました。今後も執行部としては、世界適塾構想実現のために、競争的外部財源の獲得に全力を上げていきます。

そのうえで、大学独自の財源の確保が不可欠です。つまり、大阪大学未来基金の充実です。一昨年、世界トップ10の夢の実現のために、「創立100周年ゆめ募金」をスタートしました。昨年、基金の受入額は30億円を超えましたが、2031年までに大阪大学未来基金を100億

円以上にすることが目標です。また、阪大関係者の人の輪を広げるために、昨年新たに卒業生室を設置しました。卒業生室は、本学を卒業・修了した方々と生涯を通して関係を維持し、交流を深め、共に発展していくための施策を企画、立案し、推進していきます。大阪大学を卒業してよかったと卒業生に実感してもらえるようにしたいと思っています。

広報戦略と社会学連携

大阪大学ブランドの確立のため、原点である「適塾」と「世界適塾」をイメージづける「ブランディング戦略」を積極的に進めていきます。大阪大学のプラスイメージを国内外に示し、知名度を獲得するため、大学ホームページを引き続き充実させ、インターネットによる広報活動を強化していきます。また、HandaiGlobal(メールマガジン)による本学の活動や魅力、NatureやScienceによる研究成果のPRなど、広報活動を強化していきます。

さらに、世界各国で活躍する大阪大学卒業生などへの称号付与や阪大卒の帰国留学生とのつながりを大事にしながら阪大海外ネットワークの構築を継続していきます。

国内においても阪大ブランド力のアップを進めます。東京オフィスを活用した東京方面での広報、大学説明会やシンポジウムの開催、広告や記事提供などでの新聞社や企業等とのタイアップを行っていきます。国内卒業生ネットワークの構築などを積極的に推進していきます。

本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーとしており、積極的な社会とのかかわりとして教育実践や研究活動に係る成果を公開講座、講演会、シンポジウムなどを通じて一般市民の方々に届けています。これらの活動をさらに発展させるため、アウトリーチ活動を推進し、社会からの理解と信頼を得るため、本学構成員のアウトリーチマインドを涵養し、継続的なアウトリーチ活動を実施し、充実していきます。また豊中市、箕面市、吹田市、大阪市や大阪府などの地元自治体との連携を推進し地域社会へ貢献していきます。また中之島センターと適塾との連携を強化させ、大阪での大阪大学のプレゼンスをより高めていきます。

事務組織改革

教育・国際に係る学内体制の整備に併せ、本部事務

機構の企画機能と連動した部局事務体制を整備し、教育・国際面の改革施策を全学的に滞りなく行い得るようにします。また、今後の改革を担い得る若手人材を確保するため、採用ポリシーを明確にし、本学を心から愛し、かつ、国際対応等の専門的知識技能を備えた人材を採用します。それとともに、人事配置や能力開発にあたっては、改革の実施を担い得る資質能力の修得を重視していきます。

これらに加え、各部局の未来戦略達成のための工夫を凝らした取り組みに対する報奨制度の強化や事務(部)長未来戦略裁量経費制度の改善を進めていきます。

なお、英語表記による学内通知を一昨年10月から開始し、今後さらにその拡大に努めていく予定です。

環境整備

他の国立大学に先立って、計画性のある施設老朽化対策制度を平成24年度から実施し、平成26年度は22部局34件の事業を行っています。27年度もこの制度をフルに活用し、計画性を持った快適なキャンパスのための施設維持を行っています。

大阪大学のキャンパスでは前述しましたように、随所で新規教育研究棟や耐震工事などの施設工事のための土煙が立ち上っており、大阪大学における耐震化工事は本年3月までに全体の95%が完了予定です。そして、工学研究科M3棟が本年1月に、情報系基礎研究・福利厚生複合新棟が5月に、医学部附属病院オンコロジーセンター棟が6月に、それぞれ完成の予定です。一方、3月には工学研究科A12棟・プラズマ実験棟・U5棟、理学研究科E棟、サイバーメディアセンター本館、および薬学研究科1号館といった大規模改修がそれぞれ完成予定です。

このように、本学の教育・研究環境は飛躍的に改善されてきましたが、今年は、外国語学部のさらなる整備策の具体化にも取り組みたいと考えています。

さらに、学寮・教職員宿舍の計画的整備の一環として、世界適塾構想実現のシンボルともいべき留学生・日本人学生・教職員混住型の学寮「世界適塾ビレッジ」の整備に着手します。同ビレッジは、単なる居住空間の提供にとどまらず、世界に活躍するグローバル人材育成

の拠点と位置付けます。このプロジェクトでは、平成29年度からの第1期計画で、学寮297戸、教職員宿舍200戸、看護師宿舍200戸を整備し、最終的には、学寮2000戸、教職員宿舍600戸、看護師宿舍200戸を計画しています。

大学キャンパス内での受動喫煙をなくすため、平成24年に「喫煙対策ワーキンググループ」を設置し、そこで策定されたロードマップに従い、キャンパスにおける屋外の喫煙場所は順次削減されています。昨年には3つのキャンパスに卒煙ブースを設置するとともに、今年の4月にはすべての屋外喫煙場所はなくなる予定で、平成29年4月からのキャンパス内全面禁煙の実施に向かって進んでいます。

また、学内保育施設3箇所に加え、来年度には待望の病児・病後児を受け入れる保育室を開設する予定であり、教職員の皆様が安心して働ける環境作りを進めていきます。

リスク管理

心身ともに健康で快適な環境の維持のため、引き続き学内の安全衛生対策、ハラスメント事案に対する対応に取り組んでいきます。

昨年6月に改正労働安全衛生法が成立し、本年12月からはストレスチェックが義務化されることにより、来年度からは教職員の皆様のストレスチェックも実施する予定にしています。より早期にメンタルストレス対策を講じることができるような取り組みを行い、メンタルヘルス対策の充実・強化に取り組んでいきます。

また、公的研究費の適正なる取り扱いならびに研究者倫理の徹底、中でも公的研究費の適正なる取り扱いについての教育の徹底に取り組んでいきたいと考えています。昨年4月より、研究費の適正なる取り扱いの徹底を図るため、コンプライアンス推進責任者を任命し、組織としての責任体制を整え、研究者として守るべき規範の再確認、ならびに本部、部局、研究者個人のそれぞれの責任の明確化に向けて努力してきました。本年は、全学の協力体制のもとに、新たな不正事案が発生しないように皆様とともに努力したいと考えています。

研究における不正行為の防止に対する体制も本年中に整える予定にしています。実施に際しましては、皆様

のご協力をお願いします。

教職員の皆様には、大学人としての見識を疑われることのないよう厳しく自らを律するとの固い決意をしていただきますように重ねてお願いします。大学としても、不祥事に対しては厳正に対応していく所存です。

そして最後に

平成23年8月26日に総長に就任して以来、本日まで部局長をはじめ、教職員や学生の皆様方との対話をあらゆる機会を捉えて行なってきました。また大学執行部による部局訪問を行い、研究活動等を説明していただくとともに意見交換をしてきました。今年も引き続き皆様方との対話を積極的行なうとともに、皆様方の意見を可能な限り大学運営に活かしていきたいと考えています。

冒頭でも述べましたが、平成28年度にスタートする激変の第3期中期目標期間を前にして、平成27年は阪大の将来を決める大変重要な特別の1年になります。今年1年間は、将来に対する大きな決断を行なうとともに、様々な案件を適切にかつ迅速に処理しなければなりません。執行部としましては第3期中期目標期間をスルー

ズにスタートできるように、あらゆる努力を惜しまない覚悟で望んでいく所存です。皆様方の引き続きのご理解、ご尽力、ご協力の程よろしく申し上げます。

創立100周年を迎える2031年までに、大阪大学が「世界適塾」として、世界でトップ10に入る研究型総合大学になる。そして、「学問による調和ある多様性の創造」により心豊かな人類社会の発展に貢献する。このような夢と理念を皆様と共有し、この夢と理念の実現のために皆様と一緒に平成27年も目の前の山を一つ一つ登りきりたいと思います。

初日の出阪大の夢今昇る

最後に、皆様方のご健康とご活躍をお祈りして、私の新年の挨拶に代えさせていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

平成27年1月5日
大阪大学総長

平野俊夫



総長・理事から
みなさまに
新年の
ご挨拶

去年今年世世を継ぐ夢空翔る
初日の出阪大の夢今昇る

平野俊夫



ガンバ三冠！
大阪大飛躍
めざそう世界適塾



恵比須 繁之

旧年中は短期間にも拘わらず世界適塾入試に向けた
入試改革にご協力頂き大変ありがとうございました
国立大学改革プラン加速期間にあたる今年は 認証評
価を受けるとともに 平成二九年から始まる新学事暦
と新カリキュラムに向け準備を行う予定です



東島 清

こころ怯むことなく

出資事業が始まります

新しい仕組みでの新しい試みです

新しい年を作りましょう

馬場章夫



新年おめでとうございます
大阪大学はチャレンジするひとを
応援いたします

龍馬さんも、「世の中に失敗ちゆうことは
ありやせんぞ」と申されております

相本 三郎

Cool Heads
but Warm Hearts



OHTAKE Fumio

迎春

嘉肴ありといへども食せざればその味ひを知らずとは 國治まつ
てよき武士の忠も武勇も隠るゝに たとへば星の昼見えす夜は乱
れて現はるゝためしをこゝに…
「匿名手本忠臣蔵」大序

改革の只中であって、事が起こるたびに学内のいずこからか
現れる、綺羅星のごとき良識と熱い魂にただただ感動させら
れるばかりです。

本年もなにとぞよろしく御願ひ申し上げます。

大木 高仁

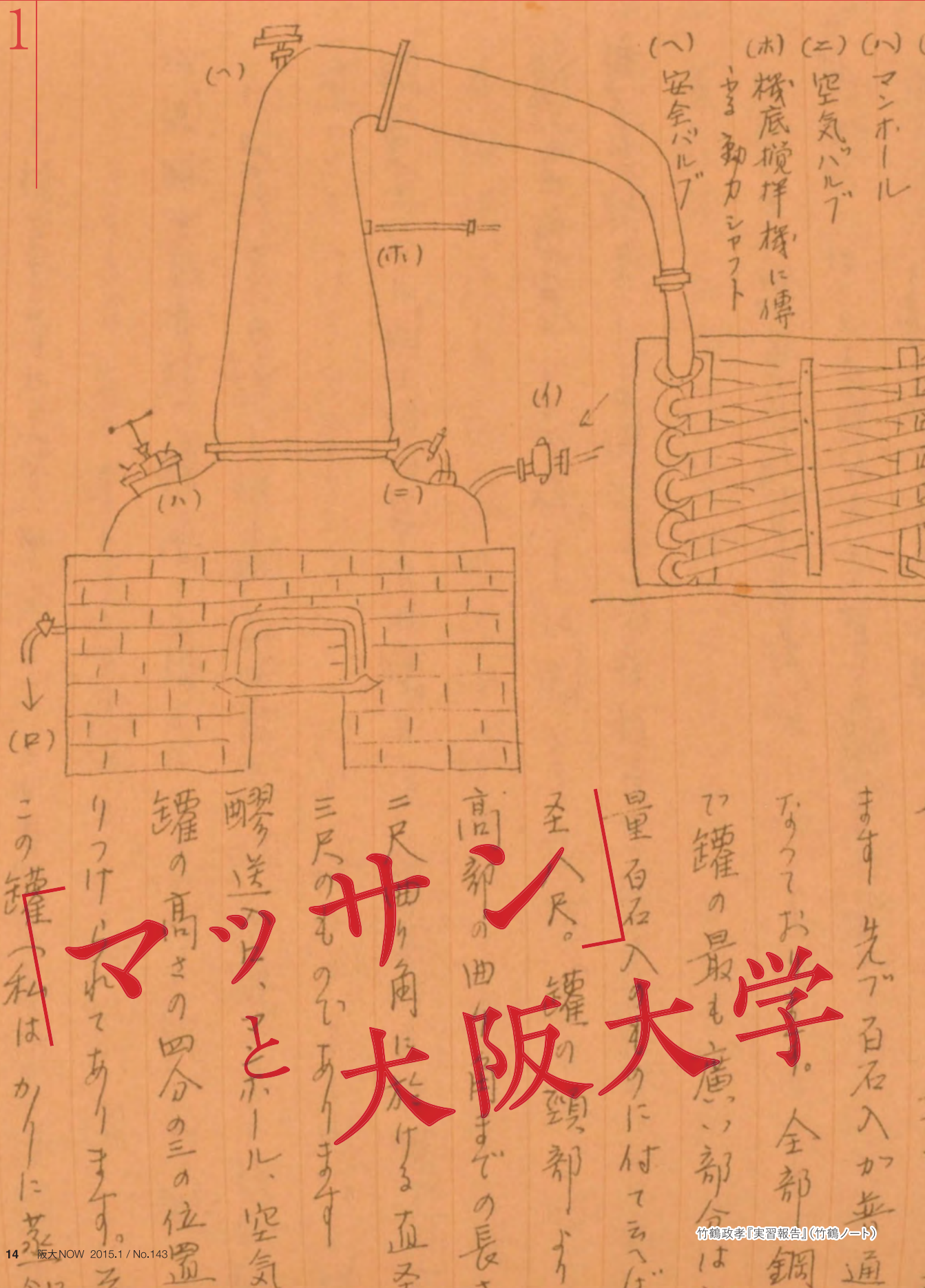
人心新歲月
春意旧乾坤



宋・真山民『新春』より

今年も一緒に頑張りましょう

岡村 康行



竹鶴政孝『実習報告』(竹鶴ノート)



展示風景・竹鶴とニッカウヰスキー第1号(筆者撮影)

「マッサン」を輩出した大阪高工醸造科

総合学術博物館 資料部 特任講師 松永 和浩

大正13年(1924)12月、ジャパニーズ・ウイスキーの最初の一滴がしたり落ちました。それから90年、初の国産ウイスキーを製造した技術者と、スコットランド人の妻を主人公のモデルとするドラマが放送されています。NHK連続テレビ小説「マッサン」(玉山鉄二、C.K.フォックス主演)です。日本人初のウイスキー蒸留技師・竹鶴政孝(1894-1979)は単身スコットランドへ留学中、グラスゴーのカーカンテロフという街に住むリタ(1896-1961)と出会い、結婚しました。大正10年、二人は大阪・帝塚山(住吉区)に居を構え、日本での生活をスタートさせました。そこからリタは竹鶴のことを「マッサン」と呼ぶようになります(しかも大阪弁で!)

実は竹鶴は、阪大工学部の前身である大阪高等工業学校を卒業しています。そのことは2011年の総合図書館企画展「国産ウイスキーの父 竹鶴政孝〜はじまりの場所〜」、2012年の総合学術博物館第15回企画展「ものづくり 上方

「酒」ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—でも紹介されています。博物館での展覧会を担当した筆者は、2013年8～9月放送のNHK土曜ドラマ「夫婦善哉」(森山未來、尾野真千子主演)で時代考証を務めた橋爪節也・総合学術博物館長の仲介で、「マッサン」の制作に洋酒関係資料提供として関わっています。ここではドラマで描かれなかった「マッサン」の大阪高工醸造科時代と、醸造科出身者が酒造業界に残した業績を紹介します。

松永 和浩(まつなが かずひろ)
総合学術博物館 資料部 特任講師。1978年生まれ。2008年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。博士(文学)。2010年より大阪大学総合学術博物館。専門は日本中世史。大阪周辺の酒史・医薬史にも携わる。主要業績に『ものづくり 上方「酒」ものがたり』(大阪大学出版会、2012年)、『室町期公武関係と南北朝内乱』(吉川弘文館、2013年)、『「森野旧薬園文書」翻刻の構想—他分野研究における歴史資料の活用を目指して—』(『生物工学会誌』92、2014年)がある。



1. 「マッサン」と 「ものづくり 上方“酒”ばなし」展



総合学術博物館には、発見から50年が経過した2014年に国の登録記念物となったマチカネワニや、懐徳堂・適塾に遡る阪大の系譜、阪大に所属した研究者の先端的な業績を紹介する常設展示があります。この他、総合大学のミュージアムらしく文理融合を標榜した年2回の特別展・企画展を開催しています。創立10周年となった2012年秋期には、上方の酒の歴史文化・製造技術を取り上げました。

室町時代の奈良では現在の清酒づくりの基本となる諸白・段掛法・火入れといった技術が開発されています。諸白は原料米を全て精白し、段掛法は世界の醸造酒のなかでも高濃度のアルコールを生み、火入れはパスツールが1865年に発見した画期的な低温殺菌法を約300年も先駆けるものでした。近世には伊丹・池田・灘・西宮といった上方の銘醸地（摂泉十二郷）で造られる「下り酒」が江戸の市場を席卷し、灘は江戸後期から現在まで清酒のトップシェアを誇っています。近代になると洋酒が日本でも造られるようになり、明治5年(1872)に日本人初のビール事業が堂島で開始され（渋谷麦酒）、同20年発足の大阪麦酒会社が吹田に近代的な巨大ビール工場（現・アサヒビール吹田工場）を設立します。混成ワイン（葡萄酒に甘味料等を添加）も道修町の薬酒問屋でいち早く造られ、小西儀助商店（現・コニシ）で丁稚奉公した鳥井信治郎（サントリー創業者）が「赤玉ポートワイン」を明治から大正にかけて大ヒットさせます。大正12年(1923)、鳥井はその売上を元手にウイスキー事業に着手、技術面を竹鶴に託して山崎（大阪府島本町）に蒸留所を建設し、ウイスキーの国産化に成功しました。

このような酒造りにおける上方の先駆的・革新的役割を各酒資料に基づき紹介したのが、本展覧会でした（詳細は松永和浩編著『ものづくり 上方“酒”ばなし』〈大阪大学総合学術博物館叢書8〉大阪大学出版会、2012年参照）。そしてその上方・中之島（大阪市北区玉江町）に明治30年、日本初の醸造学高等教育機関として大阪工業学校（明治34年に大阪高等工業学校と改称）化学工芸部醸造科が誕生しました。工業専門学校は職工の育成を目的に創設され、大阪に先立ち明治14年に東京職工学校（現・東工大）が創設されました。醸造科の他、染色科・冶金科は東京にはない大阪工業学校の特徴でした。これまで杜氏の経験と勘頼みで火落ち・腐造のリスクと常に背中合わせだった酒造業界は、科学的知見に基づく安全で安定した酒造りを求め、工業学校に醸造科の設置を要望していました。当初は東京が候補に挙がりましたが、灘・伏見等の酒造家や日本の「ビール醸造界の権威」となる大阪麦酒技術長・生田秀（1857-1906）等の要望により、大阪に開設されることになりました。なお大阪工業学校醸造科は、次のような変遷を辿り現在に至ります。

明治 30 年 (1897)	大阪工業学校醸造科
同 34 年 (1901)	大阪高等工業学校醸造科
昭和 4 年 (1929)	大阪工業大学醸造学科
同 8 年 (1933)	大阪帝国大学工学部醸造学科
同 18 年 (1943)	大阪帝国大学工学部発酵工学科
同 22 年 (1947)	大阪大学工学部発酵工学科
平成 3 年 (1991)	大阪大学工学部応用生物工学科
同 7 年 (1995)	大阪大学工学部応用自然科学科



大阪高等工業学校校舎（『写真集 大阪大学の五十年』）

開校当時の醸造科の定員は8名、修業年限4年、実修課程は「醸造ノ予備実験、顕微鏡的試験」（1年）、「酵母媒（培）養及醸造試験等」（3年）、「ビール葡萄酒日本酒等醸造特修」（4年）となっていました。しかし初年度に入学者はなく、入学資格が中学校卒業、修業年限3年となった明治32年に定員の過半に達し、同35年7月に初めての卒業生5名を送り出しました。

醸造科初代教授には、日本の酸・アルカリ工業技術の先駆者であった坪井仙太郎（1861-1921）が迎えられました。坪井は岐阜・揖斐川の酒造家の三男で、東京大学工科大学応用化学科を卒業後、日本舎密製造株式会社、住友別子銅山を経て、明治29年から25年にわたり醸造科教授を務めます。醸造学研究者としては、大正3年に代用清酒の製法を開発したことが特筆されます。米以外の安価な原料を用いる代用清酒（合成清酒）としては、大正7年の米騒動を契機に理研の鈴木梅太郎が開発した「理研酒」が有名ですが、坪井はそれに先行していました。醸造科はしばらく教授・助教授各1名の陣容で、坪井は専門課程の担当でした。大正に入り教授1名が増員され、竹鶴が卒業した直後の大正5、6年度では

坪井が醸造学・応用化学・特別有機化学、西脇安吉教授が細菌学・顕微鏡使用法・化学分析、大崎正雄助教授が化学分析を分担し、3名で工場実修に当たる態勢となっていました。坪井は就任当初より学科課程教旨・教授法・教科細目の作成・内容の選定、実修工場の充実、図書の整備に努め、自費を投じたこともあったといえます。

この国内唯一の醸造科には、造り酒屋の子弟が全国から集まりました。坪井の薫陶を受けた大正10年までの卒業生約500名のうち約25%が官庁で主に酒税業務・酒造家の監督に携わり、約40%が自営すなわち醸造家となりました。そのなかから竹鶴はじめ、酒造業界に多大な貢献を果たすこととなる人材が生まれました。



坪井仙太郎
（『醸造会誌』26 坪井博士追悼号、1921年。
大阪大学アーカイブズ所蔵）

2. 大阪高工醸造科スピリッツ

大阪高工醸造科が酒造業界に送り出した多士済々の人材のうち、ごく一部の代表的な人物を紹介します。

岩井喜一郎

(1883-1966)



本坊蔵吉『卒寿記念』。博物館叢書8より転載

明治35年(1902)の第一回卒業生で、同窓会である醸造会(1910年)・大阪醸造学会(1923年)の設立や、坪井の教授退官にともなう坪井記念館の建設にも奔走した、同窓生を代表する人物。技術者としては、日本のアルコール製造に多大な業績を残しています。宇治火薬製造廠では、麴の糖化による日本式アルコール製造法の基礎を確立し、摂津酒造では1回の蒸留で95%の良質アルコールを精製する岩井式連続蒸留機を完成させ、明治45年からは全国に先駆けて新式焼酎(焼酎甲類)の製造を開始しました。大正8年には、大正3年に坪井が開発した代用清酒を、初めて工業的に大量生産した「新春」を販売しました。

後述の通り、竹鶴は岩井を頼って摂津酒造(大阪市住吉区)に入社し、「竹鶴ノート」は岩井に提出されました。岩井はこれをもとに、顧問を務める本坊酒造(鹿児島市)で、昭和35年から「マルスウイスキー」の製造を指導しました。「マルス」は1992年に蒸留を休止後、2011年から再開し、2013年にはサントリーの「響21年」とともに「マルス28年」がウイスキーマガジン社主催WWAワールドベストを受賞しています。



(1883-1953)

花岡正庸

『花岡先生を偲ぶ』。叢書8より転載

明治40年(1907)卒業後、長野の実家の造り酒屋を継ぎますが、間もなく火災で酒庫を失い技術者の道に転じます。大正2年(1913)、大蔵省丸亀税務監督局鑑定部の技師となると、同部発行の『実験清酒造醸造法講義』(1917)の執筆、酒母の早湧きに対し硝酸塩を投入する方法の発見により頭角を現します。

大正7年には仙台税務監督局へ異動し、秋田の酒造家への指導に注力します。大正9年に能代の渡辺醸造部で70%とかつてない高精白歩合の米で仕込む実験を行い、低温長期発酵を推奨して、秋田の吟醸酒造りを牽引していきます。翌年には複数の酒造家が設立した秋田銘醸の顧問、同14年には秋田県専任技師、昭和6年には秋田県醸造試験場初代場長に就任します。

その間、花岡の指導を受けた県内の酒蔵が全国清酒品評会で立て続けに上位に入り、第14回(1934年)では「太平山」を筆頭に10位中8銘柄を秋田酒が占めました。それまで地元で消費される「地酒」に過ぎなかった秋田酒を、全国区に押し上げた最大の立役者が花岡でした。



河内源一郎

(1883-1948)

南日本新聞社提供。叢書8より転載

明治41年(1908)卒業後、福山の実家の醤油屋が不振に陥ったため大蔵省税務監督局技師となり九州に赴任しました。鹿児島焼酎業者から腐造の悩みを聞かされたのをきっかけに、生涯を焼酎の改良に費やすことになります。

温暖な鹿児島で寒造りの清酒と同じ黄麹を使用していた点に河内はまず疑問を抱き、明治43年にクエン酸を生成して腐敗菌を抑制する「泡盛黒麹菌」の分離に成功します。同じ頃、二段仕込みに改良され、黒麹菌の効果と相まって収量が約35%増加し、辛口の黒麹焼酎は「ハイカラ焼酎」として浸透していきます。さらに大正12年(1923)、黒麹菌から変異した白麹菌を発見し、口当たりのやわらかい焼酎が得られました。昭和6年(1931)からは河内源一郎商店(鹿児島市)を設立し、種麹の研究・製造・販売に専念しますが、県内の種麹屋を圧迫しないよう販路は朝鮮・満州に求めました。ちなみに現在でも、マッコリにはもっぱら白麹菌が使用されています。薩摩焼酎には黒麹もしくは白麹仕込みを明記した商品が並んでいますが、河内の功績抜きには現在の焼酎を味わうことは出来ないのです。



佐藤卯三郎

(1895-1947)

醸造科時代の佐藤(新政酒造提供。叢書8より転載。)

大正5年卒業の竹鶴と同期生で、花岡の指導をいち早く実践した新政酒造(秋田市)5代目佐藤卯兵衛。卒業後は家業に従事し、備前「雄町」・播州「山田錦」といった高価な酒造好適米を取り寄せ、最新型の精米機を使って当時としては例のない精米歩合6~5割という高度精米技術を発案・実行しました。佐藤の造る吟醸酒は、当時まれにみる芳香を放ち、大正13年の第9回全国清酒品評会での優等賞を皮切りに数々の賞を獲得しました。

この栄誉は蔵付き酵母の働きによるところも大きく、華々しい吟醸香と低生酸性・低温発酵性を備え、花岡の提唱する長期低温発酵に適していました。昭和5年、新政酵母は醸造試験所技師の小穴富司雄(1898-1974。醸造科1919年卒業)によって分離され、「きょうかい6号酵母」として同10年から日本醸造協会より頒布されるようになります。6号酵母は現在頒布される最古の「きょうかい酵母」で、他の協会酵母の起源とされています。新政酒造では昭和初期の6号酵母原株などを冷凍保存し、近年は全ての酒を6号酵母で仕込んでいます。

3. 「マッサン」と大阪高工醸造科



大阪高工入学記念写真（ニッカウヰスキー所蔵）

竹鶴政孝は明治27年(1894)、広島・竹原の竹鶴酒造の三男として誕生し、地元の忠海中学を卒業後、大正2年(1913)に大阪高工醸造科に入学しました。二人の兄が家業を継がなかったため、自伝には「学校でも理科は得意だったから、両親はますます私に期待した。私は酒屋という古めかしい商売には抵抗を感じながらも学問的な興味も手伝って、大阪高等工業（現在の大阪大学）の醸造科を受験して入学した。醸造学を修める学校はこころづかなかった大正二年のことである。」(『ウイスキーと私』)と記しています。

在学中は柔道部に所属し、後に阪大医学部となる大阪府立医科大学としのぎを削ったそうです。中学の後輩に当たる池田勇人（第58～60代首相）が「竹刀をもって部屋を見回りに来る寮長の竹鶴さんは柔道でもならしており、こわいという感じだった」と語るほど、既にして鍛え抜かれていたようです。勉学については坪井教授に心酔したとあるだけで、自伝では多くを語りません。ただ同級生で頭脳明晰と謳われた佐藤卯三郎とともに「西の竹鶴、東の卯兵衛」と称されたことから、その優秀さが窺われます。なお同級生に



柔道部の竹鶴（アサヒビール提供。叢書8より転載）竹鶴は2列目・右から3番目

は他に、ウスターソース発祥のイギリスへ同じく単身留学してオジカソース（京都）を祇園で創業した松本信太郎がいます。

卒業の年を迎えた正月、実家のコタツでまどろむ竹鶴はふと「これからの長い人生を竹原という田舎町で、酒づくりに終わってしまうのかという感傷」に襲われます。醸造科生は卒業後の12月に徴兵検査を受け、除隊後に実家の酒屋を継ぐのが通例でした。身体に自信があり徴兵を覚悟していた竹鶴は、その前に人一倍興味を持っていた洋酒づくりを一度やってみたいと思い立ち、すぐに行動に移します。醸造科第一回卒業の岩井喜一郎が常務を務めるアルコールメーカー・摂津酒造を訪問し、その場で社長の阿部喜兵衛から入社を許され、卒業前の大正5年3月から洋酒づくりに従事するようになります。なお徴兵検査では軍需産業でもあるアルコール製造技師ということで甲種合格を免れ、家業の方は阿部の説得によって親類に譲られることに決まりました。

入社後は洋酒部門の主任に抜擢され、寿屋の「赤玉ポートワイン」といった葡萄酒やウイスキーを受託製造しました。といっても、当時の国産洋酒はアルコールに香料・甘味料・着色料を加えたイミテーション、つまりは偽物でした。第一次世界大戦の好景気を好機と捉えた阿部は、本格的なウイスキー製造を目論み、竹鶴をスコットランドに派遣します。こうして大正7年7月、神戸を出港した竹鶴はサクラメントでワインを学んだ後、リバプールに到着しました。

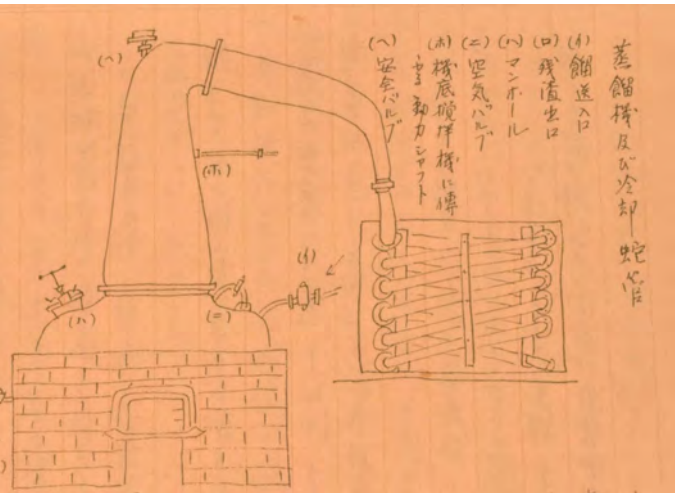
まず大阪高工の卒業証書を手にグラスゴー大学応用化学科に入学を申し込み、外国人聴講生となります。なおこの卒業証書は英文で、大阪高工の校長

竹鶴ノートに描かれたポットスチル（アサヒビール提供。叢書8より転載）

に頼んで作成してもらったそうです(『ヒゲと勲章』)。しかし「グラスゴー大学の講義そのものは、すでに日本で勉強したことへの繰り返し」(『ウイスキーと私』)だったため、蒸留所で実地経験を積むことにしました。主にハイランド地方エルギンのロングモーン蒸留所でモルトウイスキー（大麦を原料とした単式蒸留）、ローランド地方ボーネスのジェームス・カルダー社でグレーンウイスキー（トモロコシ等を原料とした連続式蒸留）、キャンベルタウンのヘーゼルバーン蒸留所でモルトウイスキーとブレンド技術を学び、全種類の製法を身に付けました。

実習の成果は帰国後『実習報告』としてまとめられ、岩井に提出されます。それこそがジャパニーズ・ウイスキーのバイブルともいべき「竹鶴ノート」です。山崎蒸溜所の施設・設備は全て竹鶴が設計・発注することになりますが、留学中の詳細なノートが役立ったといえます。また留学生活をつづった「漫遊土産話」が、醸造科卒業生を中心に組織された大阪醸造学会（現・日本生物工学会）発行の『醸造学雑誌』3-12・4-1(1926)に掲載されています。

しかし単身留学の実際は孤独と重圧に満ち、繰り返し読んでいたネットトンのウイスキーの本には「毎日が苦しい、しかし頑張り耐えねばならぬ」と走り書きしたり、勉強の途中で帰国したことを母から叱責される夢を何度もみて枕を濡らしたそうです。こうしたなかでリタと出会い、周囲に反対されながらも結婚し、大正10年11月、ともに日本の土を踏みました。「マッサン」の物語は、ここから始まることになります。



4. ジャパニーズ・ウイスキーと阪大

今やジャパニーズ・ウイスキーは世界の五大ウイスキーに名を連ね、近年の世界的コンペティションで上位を占めています。2012年、ウイスキーマガジン社が「世界のウイスキー、100人のレジェンド」を発表し、日本人4人が選出されました。ジャパニーズ・ウイスキーを生んだ事業家の鳥井信治郎と技術者の竹鶴は、当然のごとく含まれますが、注目すべきは残りの2人です。ひとり鳥井の次男でサントリー第2代社長・佐治敬三(1919-99)で、和食に合うウイスキーを追求した点が評価されました。そして最後が、「マルスウイスキー」を造った岩井喜一郎でした。4人中2人が大阪高工醸造科出身、大阪帝大理学部出身の佐治を含めれば、実に3人が阪大出身者ということになります。ジャパニーズ・ウイスキーの歴史において、阪大は極めて重要な位置を占めているのです。この点については4月号で改めて取り上げたいと思います。

【主要参考文献】
竹鶴政孝『ヒゲと勲章』ダイヤモンド社、1967年
竹鶴政孝『ウイスキーと私』ニッカウヰスキー、1972年
大阪大学工学部醸造・醗酵・応用生物工学科編集・発行『百年誌』1996年
『日々新たにーサントリー百年誌』サントリー、1999年
沢井実『近代大阪の工業教育』大阪大学出版会、2012年
松永和浩編著『ものづくり 上方“酒”ばなし』
〈大阪大学総合学術博物館叢書8〉大阪大学出版会、2012年

これぞ、「多様性」の源泉

阪大の男女共同参画!!

～「知ってる?知らない?」「意外にやってる!?いや、まだまだ?」



すべての構成員が その能力・個性を 発揮できる大学を目指して



副学長(男女共同参画担当)
瀧原圭子

これまでも大阪大学においては、男女共同参画推進オフィスを中心として男女共同参画に関する多くの実績を重ねてきましたが、学問による調和ある多様性を旨とする「世界適塾構想」の実現のためには、大学のすべての構成員のダイバーシティが不可欠であり、より全学的な取組として教職員・学生に貢献できるよう展開していく必要があると考えています。

総務省「科学技術研究調査」によれば日本の女性研究者比率は14.4%となっており、主要国の中では最低レベルにあるのが現状です。大阪大学においては、女性教員の在職比率は13.5%と日本全体の比率よりも低いものの、平成25年度の女性教員の採用比率は23.0%と飛躍的な増加を遂げることができました。

グローバル化により国内外との競争が激化している中で、斬新な研究や魅力的な教育環境を生み出し、また、学習・就労環境の整備を進める上で、女性が果たす役割は大きいと考えます。私は、本年度10月から男女共同参画担当の副学長に就任いたしました。今後、これらの状況を踏まえ、皆様からのご意見やアドバイスをいただきながら、大阪大学におけるさらなる男女共同参画の推進に尽力していきたいと思っています。

大阪大学では、平成18年4月に制定した「多様な人材活用推進に関する基本理念」において、女性をはじめとする多様な人材が活躍し教育研究に貢献できるキャンパスづくりを宣言し、男女共同参画に取り組んでいます。それから4年余を経た現在、女性教員数は緩やかながら増加傾向にあり、学内の保育施設も3か所に増えました。しかし、その一方で職階等による偏りや学内保育施設における待機児童の解消など、未だ残る課題もあります。

すべての教職員の皆さんが自らの望む道を進みつつその力を発揮できるよう、そしてその姿に後進が続くことができるよう、調和ある多様なキャンパスづくりがこれからますます求められることとなりますので、皆様のご意見に耳を傾けながら取組を推進していきたいと思っています。



理事補佐(男女共同参画担当)
沖田知子

大阪大学における「男女共同参画」の取組

大阪大学では、多様な人材の積極的な活用が教育・研究基盤の持続的な発展に必要な不可欠であるとの認識のもと、すべての構成員がその能力と個性を最大限発揮できる大学を目指しています。

今号では、我が国最大の潜在力とも言われる『女性』の力を十二分に発揮するための取組、「男女共同参画」について、大阪大学における取組の一端をご紹介します。

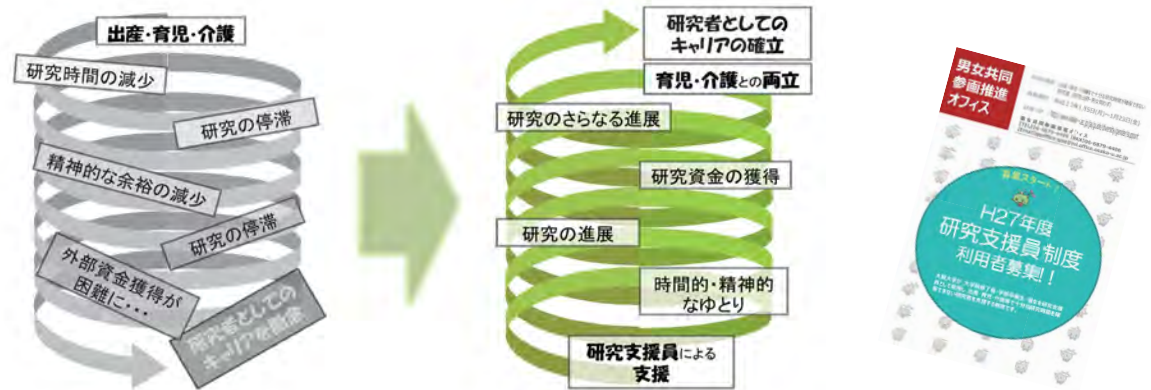
研究支援員制度

研究者が出産や育児、介護といった様々なライフイベントに直面した際に、そのことが「研究時間の減少」→「研究の停滞」→「精神的な余裕の減少」→「さらなる研究の停滞」→・・・→「研究者としてのキャリアを断念」といった負のスパイラルの入口とならないよう、「研究者としてのキャリアの確立」と「研究と育児・介護の両立」の双方を支援するため、学生等を研究支援員として配置しています。

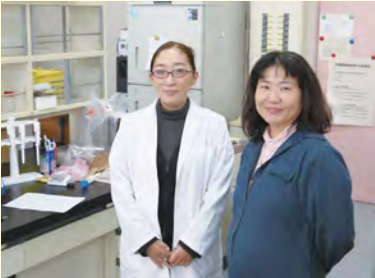
この制度は、研究者に対する支援が目的であることは勿論なのですが、それ以外にも、研究支援員が、研究者の支援を通じて研究現場に触れ、研究活動に携わることで、自らの将来のイメージを思い描く契機とすることも目的としています。

平成19年度の制度創設以来、大阪大学独自の改善と充実を重ね、現在では研究分野の別は勿論、男女の別を問わず、育児や介護等で研究時間が十分に確保できない研究者に対して支援を行っており、制度創設以来“延べ194人”の研究者を支援してきました。

来年度からは、第2子以降の育児、さらには、育児と介護の双方に携わる研究者への配慮を充実させていくこととしています。募集期間にかかわらず、随時ご相談を受け付けておりますので、男女共同参画推進オフィスまで是非ご連絡ください。



私も使っていました

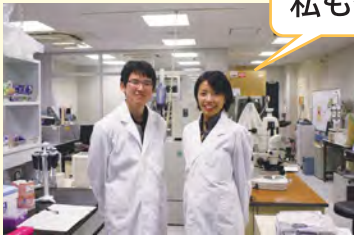


医学系研究科の助教だった頃にこの制度が大阪大学にできました。ちょうどその頃は2人の子育てと大学での研究や教育が重なり、今思い出しても一番苦しい時期でした。幸いできたこの制度を利用させていただけたおかげで、何とか困難な時期を乗り切ることができたと思います。そして、研究を諦めずに続けることができたおかげで、この夏から千葉大学の「理系女性教員キャリア支援プログラム」によって念願の独立の夢を叶えることができました。

研究は継続することが大切です。しかし、様々な事情で独力では乗り越えられない時期が女性に限らず誰にでもあると思います。各大学のこういった研究者支援の取組は、育児や介護に携わる研究者にとって心強い支えとなります。いただいた支援に深く感謝するとともに、本制度の継続とさらなる発展を願っています。

(千葉大学理学研究科生物学科教授 浦聖恵)

私も使っています



子どもたちが待っているため定刻になれば職場を離れざるを得ず、限られた時間で会議と実験をこなすのは非常に難しいのが現状です。ここを是竹君がフォローしてくれていることで、中断することなく研究を進めることができます。是竹君との関係は小さな共同研究のような感じで、視点が違うからこそ新しい意見も出てくる。研究中断という焦りがない分、自宅での時間も大切にでき、また、心の安定は新しいインスピレーションにもつながっており、良いスパイラルが構築できています。

(工学研究科特任助教(常勤) 丸山美帆子)

私は支援をしています



研究支援員として丸山先生の研究補助を行っています。自分の専門分野とは異なるのですが、先生の丁寧な指導のおかげで、仕事として以上に1つの研究として興味深く取り組むことができています。また、先生の姿からは、限られた時間の活用法など、4月からの社会人生活に生きる様々なことを学び取ることができ、日々有意義で濃密な時間を過ごしています。

(工学研究科博士前期課程2年 是竹竜馬)

学内保育園

吹田キャンパスに、たけのこ保育園・まきば保育園の2園を、豊中キャンパスに、まちかね保育園を設置し、最大185名の乳幼児を受け入れています。

また、来年度からは、要望の多かった病児・病後児を受け入れる保育室を吹田キャンパスに設置する予定です。



①たけのこ保育園



②



③

②まきば保育園

③まちかね保育園

臨時託児室設置支援 *it's new*



育児に携わる教職員が学会や研修会に参加する際に、大きな障壁となる“保育の確保”。それを解消するために、本年度から臨時託児室の設置に対する援助と施設使用料の免除を行っています。

初年度となる本年度は10件の会議等を採択しました。来年度も実施する予定です。

- 日本労働法学会第127回大会(5/25)
- 土木学会全国大会第69回年次学術講演会(9/10～12)
- 第54回日本核医学会学術総会(11/6～8)
- シンポジウム「保育と行動経済学～学内保育園を通じて～」(11/15)
- ふたごフェスティバル2014(11/2)
- 第108回関西形成外科学会学術集会(12/21)等

女子中高生のための関西科学塾

現在の大阪大学を担う教職員だけではなく、次世代を担う中高生、特に理系への進路選択を迷いがちな女子中高生を対象として、大阪大学・京都大学・神戸大学・奈良女子大学・大阪府立大学の5大学が連携して、毎年、関西科学塾を開催し、理系への進路選択の後押しを行っています。

この関西科学塾は本年度で9回目を迎え、過去に参加した生徒が主催の5大学に入学し、入学後は運営側として関西科学塾に関わるといった好循環が生まれつつあります。



参加者から運営側へ～OGの目から見た関西科学塾～



今回、関西科学塾の運営を手伝う中で、参加者の高校生と5年前の自分とを重ね合わせて、関西科学塾に参加した体験が今の自分に繋がっているんだと感じ不思議な気分になりました。これからの中高生のためにも、関西科学塾が今後も続いて欲しいし、そのために自分も何らかの形で関わっていきたいと感じています。

(理学部化学科4年 稲益礼奈)

そのほかにも色々な支援を行ってます、詳しくはHPをご覧ください

ロールモデル集



セミナー・シンポジウム

ワーク・ライフ・バランスや育児、介護、さらにはそれにまつわるさまざまな題材をテーマに男女共同参画シンポジウム／セミナーを開催しています。



電動さく乳器のレンタル

妊婦検診・サポート外来の予約支援

男女共同参画推進オフィスより

今回は、男女共同参画推進オフィスの取組(の一部)を紹介させていただきました。ただ、女性教員の在職割合が13.5%(cf. 学部入学生的女性割合:32.3%)であることから分かります、まだまだ取組は十分ではありませんし、何よりオフィスの取組だけで男女共同参画が図られる訳でもありません。

性別を問わずすべての構成員がその能力と個性を発揮することができる大学づくりを進めていくためには、全ての構成員がそれぞれの立場で、さらに言えば、職場だけではなく家庭においてもそれぞれがそれぞれの立場で、男女共同参画の理念を共有し、自らが行動していくことが必要となりますので、皆様のご理解とご協力を引き続きどうぞよろしくお願いします。

問合せ先：男女共同参画推進オフィス
電話：06(6879)4405(内線4405/9573) FAX：06(6879)4406
E-mail：geoffice-gea@ml.office.osaka-u.ac.jp



糸谷哲郎さんに聞く

学生にして将棋のプロ棋士。昨年12月に「竜王」に就任して注目度も高くなった。厳しいプロの世界に身を置きながら、阪大生として勉学に勤しむ糸谷哲郎さんにインタビューしました。

(注) 本記事は、竜王戦第5局を控えた11月27日に、豊中キャンパスで取材したものです。

●糸谷哲郎 (いとだに てつろう)
1998 年日本将棋連盟・新進棋士奨励会入り。2006 年 17 歳でプロ棋士になる。森信雄門下。06 年度新人王戦優勝、新人賞・連勝賞受賞。07 年大阪大学文学部入学。11 年より同文学研究科在籍。14 年竜王挑戦権獲得と同時に七段に昇段。同年、竜王位獲得により八段に昇段。

勉学について

——大学院ではどんな研究を？

ハイデggerの研究を行っています。人間の日常行動、思考がどのように決まるのか、人工知能、動物では見られない人間ならではの行動を比較研究する。例えば、何が食べたいかを人が考えるとき、瞬間の欲求にも影響されるが、人のバックグラウンドであるその人が過ごしてきた背景が影響しています。

——哲学への興味はいつごろから？

祖父(マルクス経済学者)がニーチェやアリストテレスを研究していたので、その影響があります。中学生のころから興味を持ち、政治系の思想書を読んでいた。方向性を固めたのは大学に入ってから。

——大学研究室には？

ゼミは10名程度。研究室で話したりすることで(将棋を離れて)気分転換にもなっている。阪大の中では、研究室で過ごした時間が最も長いです。

——棋士と大学院生の両立は大変では？

いくつものことを並行して行っている方が緊張感が絶えないので自分には良いと思う。ただ、棋士としてタイトル戦やイベント関係で忙しくなってきたので、最近ではなかなか勉強の時間が取れない。大学に行くからには自分の中で納得できるまで勉強したい。そう考えているので大学院にも進んだ。これからもその考えは変わらないと思います。

日々の生活について

——普段の生活は？

今は家と関西将棋会館の往復の日常。食事也将棋会館の近くで済ますことが多い。学部1〜2年のころは自分でパスタを作って食べていた。3年になって、さすがにパスタばかりだと飽きてきた(笑)。

——他の学生と違う点は？

(アルバイトをしたり、飲み会にいたり、サークルに入ったりという普通の学生の感覚と) 特別違うと思ったことはない。

——ロックをよく聴くとか？

母がピアノ教室をやっており、クラシックを毎日聞いていた反動からだと思う(笑)。 アジカンとかバンブとかをよく聞く。

——睡眠時間は？

1日平均3、4時間くらい。寝なくても平気な方です。寝貯めすることはありますが。

——読書は？

いろいろ読みます。1時間で300ページくらいは読んでしまうので。



将棋について

——将棋を始めたのはいつから？

5歳の時にニュースで「将棋」という単語を聞き、興味を持ち、父に尋ねて知った。広島将棋センターで道場に通った。奨励会には、9歳の時に試験を受けてギリギリだったが合格できた(1回で合格)。

——家でも将棋盤を出して指す？

最近では、パソコンで棋譜を見ることが多くなりました。

——両親の反応は？

両親も大学に通っていること、将棋をしていることに喜んでくれていると思う。

——「糸谷ウォーク」って知っている？

(将棋雑誌などで、「糸谷ウォーク」という言葉も出てくるほど、糸谷さんがよく歩くことに注目が集まっている) そうなんですか(笑)(歩くことは)特に意識してないですね。歩いた方が、脳にはいいというのはあるので、歩くようにしている、というのがあります。大学の構内を歩いている時も、答えの出ていない局面を思い描くことはありますね。

——街で声かけられたりする？

大阪ではなかなかないが、(出身地の) 広島に帰ると声をかけられることもある。メールとかLINEで友人とやり取りするので、そこで「おめでとう」とか連絡をくれる人もいます。

大阪大学について

——大阪大学の良いところは？

いろんな哲学が学びやすいところだと思う。贅沢に学べるところ。分析系の哲学(カント、カーナップ、クワインなど)と大陸系の哲学(ニーチェ、ハイデggerなど)といった枠組みを超えて自由に学べた。臨床哲学の対話の授業も面白かった。

——後輩に向けてメッセージを。

せっかく大学に来ているのだから、得心いくまで学んでほしい。大学を卒業して就職してから悩む人が多いので。

最後に

——座右の銘は？

「振猛」。「勇氣(猛)は振るうべき時に振るえ」という意味です。

——次局に向けて意気込みを。

前局は内容がよくなかったので、きれいな将棋を指したいですね。まだ7戦までの挑戦権を得ただけなので。気を抜くと一気にやられるので。次も頑張ります。

ーインタビューを終えてー

どんな学生かと構えましたが、話をしてもごく普通の学生の印象でした。素直な受け答えの中にもどこか凛としたたずまいを持っているところは、長年将棋と向き合ってきた品格なのでしょう。緊張もせず、いつも自然体でいられるところが彼の天性の才能だと思います。「哲学のことを話し出したら止まらないですよ」と聞いて、この先も阪大で専門を磨き、将棋でも大輪の花を咲かせてほしいです。(インタビュー：広報・社会学連携オフィス・松本紀文 写真撮影：毎日新聞社)

昨年12月22日(月)、糸谷さんが平野俊夫総長を表敬し、タイトル獲得の報告をしました。

二人は哲学のこと、学業と将棋の両立、集中力維持の秘訣などを語り合いました。平野総長から記念の色紙と阪大の襟章を贈呈され、糸谷さんも色紙と著書「現代将棋の思想」を平野総長に手渡しました。

懇談の記事は大阪大学ニューズレター 67 号に掲載します。



「世界適塾構想」に関する学内説明会を開催

10月14日(火) コンベンションセンターで、全教職員を対象とした「世界適塾構想」に関する学内説明会を開催し、サテライト会場(豊中キャンパス、箕面キャンパス、大阪大学東京オフィス)を含め、約600名の教職員が参加しました。

2014年を「世界適塾」元年とし、「世界適塾構想」の下、様々な大学改革・教育改革を大阪大学が一丸となって推進していくために、今後、大阪大学が目指す方向性、取組等について、平野俊夫総長から説明がありました。

最後に平野総長から教職員に向けて、「大阪大学の夢を叶えていただきたい。そのために目の前の小さなことでもいいから努力をしていただきたい」と熱いメッセージがありました。

※説明会の動画及び資料、世界適塾パンフレットは、本学公式ウェブページからご覧いただけます。

※「世界適塾構想」は、文部科学省の公募型事業「スーパーグローバル大学創成支援」(タイプA)に採択されています。



世界適塾パンフレット

大阪大学未来戦略光科学連携センターの設置

10月1日(水)、独立行政法人理化学研究所との研究協力のもと、同研究所播磨事業所(SPring-8)内に、大阪大学未来戦略光科学連携センターを設置しました。

本センターは、SPring-8との組織的な連携の下に、世界最先端の基盤技術ならびに国際競争力ある要素技術と人材を連携させ、大阪大学のみならず我が国の高エネルギー光科学とその利用技術分野における国際競争力を高めることを目的として開設されました。

10月31日に開催された本センター開所式では、平野俊夫総長による挨拶、木村直樹文部科学省研究振興局学術機関課長、川合眞紀理化学研究所理事より来賓祝辞が述べられた後、テープカットが行われ、来賓、センター関係者等、100名を超える出席者を得て盛大に挙行されました。

センター長
理事・副学長 相本 三郎



UC/UCEAP 大阪オフィスの開所

12月3日(水)、世界有数の教育研究機関である米国・カリフォルニア大学の西日本における活動拠点となる「University of California(UC)/University of California Education Abroad Program (UCEAP) 大阪オフィス」が豊中キャンパス文理融合型研究棟に開所しました。

UC/UCEAP 大阪オフィスの主な活動は以下のとおりです。

- ・本学とUCとの相互の学生交流の推進
- ・本学既存の学生交流プログラムの拡大
- ・主にUC学生を対象とする短期プログラムの企画、実施
- ・本学へ受け入れたUC学生のケア
- ・UCへの留学希望者(本学学生)へのアドバイス
- ・UC教員による本学学生への英語授業(集中講義、特別講義を含む)の提供
- ・UC教員の専門研究分野に関する、本学教員との共同研究、意見交換、情報収集
- ・UCとの国際シンポジウム、ワークショップなどの企画、実施
- ・UCの西日本協定大学との学生交流推進

オフィス長は、UC東京スタディセンター長が兼務し、オフィスの活動を遂行、支援するために、UCのFacultyから特任教員(常勤)を定期的に招聘する計画です。

また、UC関係者から特任教員としての非常勤職員を雇用し、活動をさらに推進することを目指しています。今後、カリフォルニア大学と大阪大学の連携が緊密になり、交流がより一層活発となることが期待されます。

理事・副学長 岡村 康行



「未来戦略」に向けた人事・給与システム柔軟化の更なる展開

1. 新たに国内外の研究機関とクロス・アポイントメント協定を締結

「大阪大学未来戦略(2012-2015)」に掲げる「柔軟な人事制度の構築」の実現に向け、他機関との混合給与を制度化した「クロス・アポイントメント制度」を平成26年1月1日に制定しました。

これまでに、国内では理化学研究所と本学核物理研究センターにおいて平成26年4月に同協定を締結し、理化学研究所の研究者を本学に受け入れたことをはじめ、更に、国内外の研究機関との協定を締結しています。

<国内>

協定機関名：東京工業大学 地球生命研究所
大阪大学 大学院情報科学研究科
対 象 者：四方哲也(よも てつや)教授(情報科学研究科)を東京工業大学へ派遣
協 定 期 間：平成26年11月1日～平成34年3月31日

<海外>(平成26年12月1日現在締結済み一覧)

	機関名(国名)	実施部局	協定期間
1	ナント中央理工科大学(フランス)	工学研究科	H26.9.22～H27.3.31
2	ヨーロッパ日本研究所(スウェーデン)	言語文化研究科	H26.10.1～H27.3.31
3	フィンランド国際問題研究所(フィンランド)	言語文化研究科	H26.10.1～H27.3.31
4	ヘブライ大学(イスラエル)	言語文化研究科	H26.10.1～H27.3.31
5	TORUMF 研究所(カナダ)	核物理研究センター	H26.11.8～H27.3.31
6	ウィニペグ大学(カナダ)	核物理研究センター	H26.11.12～H27.3.31
7	インファ大学(大韓民国)	核物理研究センター	H26.11.17～H27.3.31
8	プリマス大学(イギリス)	工学研究科	H26.12.1～H27.3.31
9	ムハンマド5世大学(モロッコ)	工学研究科	H26.12.1～H27.3.31
10	ロイヤルメルボルン工科大学(オーストラリア)	接合科学研究所	H26.12.1～H27.3.31
11	インド工科大学(インド)	基礎工学研究科	H26.12.1～H27.3.31
12	ジェームズクック(オーストラリア)	基礎工学研究科	H26.12.1～H27.3.31
13	UNIVERSITÉ LIBRE DE BRUXELLES(ベルギー)	免疫学フロンティア研究センター	H26.12.1～H27.3.31

海外の研究機関とのクロス・アポイントメント協定により受け入れる教員は、本学未来戦略機構グローバル化推進部門に受け入れ、各共同研究実施部局で勤務することとしており、今年度中には約30件程度の規模での締結を予定しております。

平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果の公表

第2期中期目標期間の4年目となる平成25年度の業務の実績に関する評価結果が国立大学法人評価委員会から公表されました。

本学は、「大学に求められる課題に柔軟かつ機動的に取り組み、積極的な大学改革を進めることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいる」と評価され、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」の各事項については、「順調に進んでいる」との評価を受けました。

一方で、法令遵守に関する課題として、「臨床研究に関する倫理指針違反」、「麻薬の不適切な管理」、「個人情報情報の不適切な管理」、「施設の貸し付けに関する会計検査院の指摘」、「遺伝子組み換え施設での未届けの使用」が挙げられ、「その他の業務運営」の事項については、「やや遅れている」との評価を受けました。

法令遵守違反が起きますと、当然のこととして、厳しい評価となりますので、今後は、そのような事案が生じることのないよう、ご留意をお願いします。

なお、評価結果全文については、本学公式ウェブページに掲載しています。トップページから、「評価結果」で検索してご覧ください。

理事・副学長 恵比須 繁之

2. 「年俸制」適用対象の拡大

平成26年1月に、教員の給与制度の選択肢を増やすことで、教員の採用についての各部局の自由度を上げ、人事・給与システムの柔軟化を図るために年俸制(65歳定年)を「国際的に優れた研究者等で大学が特に必要と認める者(教授クラス)」を対象として導入しましたが、更にそれを促進すべく平成26年7月から「定年退職前(58歳以上の教職員退職手当規程適用者)の教授」について適用対象の拡大を行いました。

今後とも、引き続いて人事・給与システムの柔軟化を図るべく、適用対象の拡大についての検討を行うこととしています。

理事 大木 高仁

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の設立

本学が、大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の発起人として提出した産業競争力強化法に基づく「特定研究成果活用支援事業計画」が、平成26年9月1日付で文部科学省・経済産業省から認定を受け、12月18日付で同社に対する本学からの出資金の額が文部科学省から認可されました。これを受けて、12月22日付で会社登記を行い、大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社が設立されました。

同社は、大学に対する出資事業(官民イノベーションプログラム)の推進に当たり、本学の共同研究講座(部門)・協働研究所をはじめとした共同研究の実績等も踏まえつつ、本学の研究成果を事業化しようとする大学発ベンチャー等へ、投資による資金供給等の支援活動を実施します。

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社の投資活動実施に関しては、同社を無限責任組合員とする投資事業有限責任組合(ファンド)の文部科学省・経済産業省による計画認定及び本学からファンドに出資する金額の文部科学省による認可を経て、ファンドを設立した後に開始されることになります。

理事・副学長 馬場 章夫

*会社概要

会 社 名	大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社 (OSAKA University Venture Capital Co., Ltd.)
所 在 地	大阪府吹田市山田丘2番8号 (大阪大学テクノアライアンス棟8階)
設 立 日	平成26年12月22日
事 業 内 容	投資事業等(特定研究成果活用支援事業)
出 資 金	70百万円 (資本金35百万円、資本準備金35百万円)
代表取締役	松見 芳男
株 主	国立大学法人大阪大学(100%保有)



施設整備とキャンパス環境の改善

10月に、吹田キャンパスに生命システム棟が完成しました。

この建物は、本学の各研究科の有する国際的に卓越した研究基盤を基に、世界先端のバイオイメージング技術を集約することにより、分子・細胞イメージングの研究教育における国際拠点の整備を行うことを目的に建てられました。

特徴的なDNAを思い浮かべる二重らせん構造のステンレス・メッシュによる外観は、光や風などの環境要素によってその表情を変え、建物外観に揺らぎのある表情を生み出し、外部環境に呼応する外皮は生物の外皮や細胞膜にも喩えることができ、本施設を表象するものとなっています。

また、同キャンパスの北東側では、次世代コンピューターの導入が予定されているサイバーメディアセンターITコア棟の新築工事及び本館の改修工事を進めています。

アカデミッククラウドの主要な拠点としてキャンパスの象徴となるように、同棟は自然の多い周辺環境にも配慮し、1/fゆらぎをモチーフにした外装パターンを採用することにより、印象的なフォルムで周囲に開かれた軽やかで柔らかなイメージの外観となりました。

理事・副学長 恵比須 繁之



生命システム棟



サイバーメディアセンターITコア棟

役員室だより

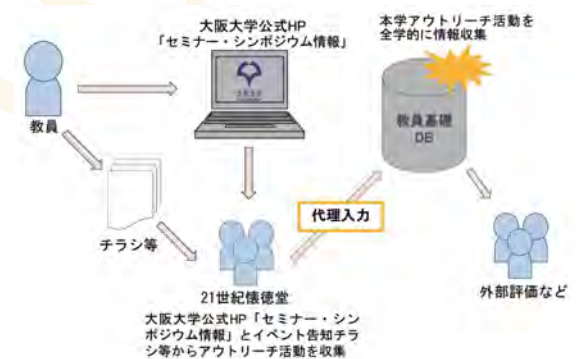
アウトリーチ活動支援、代理入力を開始

平成26年12月1日以降に実施された市民向けの公開講座やサイエンスカフェ等の教員のアウトリーチ活動を対象に、全学的な情報収集及び教員基礎データへの代理入力を開始しました。21世紀懐徳堂が主体となり、大阪大学公式ホームページのセミナー・シンポジウム情報や教員・部局等から提供されるチラシ等からアウトリーチ活動の情報を集め、教員の代わりに教員基礎データ内の「社会活動（講演会・展示会）」に登録します。

教員基礎データベースに代理入力することで、教員の負担を軽減するとともに、本学教員によるアウトリーチ活動の確実な情報発信を全学的に促進します。さらに、集約された情報を分析し、学内外の評価につなげるとともに、大阪大学の学外へのブランド力を強化します。

社会からの理解と継続的な信頼を得て、地域に生き世界に伸びるため、アウトリーチ活動の支援に努めてまいります。構成員のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

理事・副学長 岡村 康行



報道関係者との懇談会で学内施設見学を実施

10月22日(水)、在阪報道関係者と大阪大学との懇談会を開催しました。

これまで、年に2回、中之島センターで開催していた同懇談会を、今年から、年に4回とし、そのうち2回は学内施設見学なども取り入れていくことにしました。

今回は、工学研究科の牛尾知雄准教授の説明で、気象用フェーズドアレイレーダを22名の報道関係者が熱心に見学しました。

その後、場所を銀杏会館に移し、平野俊夫総長をはじめとする執行部と懇談を行いました。

また、10月29日(水)には、大阪大学東京オフィスにおいて、今年2回目の首都圏の報道関係者との懇談会も開催しました。

今後も大阪では年4回、東京では年2回、報道関係者との懇談会を開催することにしておりますので、各部局の最新の研究成果やトピックスなど情報提供をお願いいたします。

理事・副学長 岡村 康行



平成26年度情報セキュリティ研修を実施

「大阪大学情報セキュリティ対策基準」に定める教育の一環として、平成26年度情報セキュリティ研修を11月14日(金)に吹田キャンパス、11月27日(木)に豊中キャンパスでそれぞれ実施し、200名以上の多くの教職員の参加があり、情報セキュリティに対する関心の高さがうかがわれました。

本研修は、教職員の方々に、業務上情報システムを利用する際のリスクや、身の回りに潜む脅威を認識してもらうことを目的に行っています。

情報セキュリティに対するリスクマネジメントは、重要な経営課題の一つであり、機密情報や個人情報等の重要な情報を取り扱う場合に、これを保護することは、大学の社会的責務であります。

今後も、定期的に情報セキュリティ研修(一般利用者向け、システム管理者向け)を計画していきますので、ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

理事・副学長 馬場 章夫



大阪大学未来セミナーを実施

「大学に関する諸課題についての研修」の一環として、本学若手職員を対象とする「大阪大学未来セミナー」(平成26年9月18日～11月6日、全8回講義)を実施しました。3回目となる今年度のセミナーには、事務職員、技術職員計25名が参加し、研究力強化や広報戦略など学内の第一線で活躍する教員等による講義及びグループワークに取り組んだほか、医学部附属病院や図書館の視察などを行い、大学を取り巻く現状や課題、大学と社会との関わりなどについて様々な視点から認識を深めました。

講義最終日には、これまでの研修成果を踏まえ、5名ずつの班に分かれ検討を重ねた『“世界トップ10”を目指す大学づくりに向けた提案』を、理事、副学長、監事などを前にプレゼンテーションを行いました。(各班の発表テーマは次のとおり。)

- A班・ボトムアップ
「地域に根差した病院の再開発計画」
- B班・チーム適塾
「バスから目指す世界トップ10!」
- C班・チームオモロー
「みんなでオモロい大学づくりしよう」
- D班・チームナチュラル
「大阪大学の学生をもっと勉強させる
ー学生がもっと勉強したくなる環境づくりー」
- E班・チームたぬき
「優秀な学生を獲得するために受験者層を広げる」

大学が抱える課題への様々な提案を受け、理事からは病院の在り方の見直しや入試広報の改善というテーマ設定と、それらに対する具体的な課題解決策を評価する意見などが出されました。

本学が目指す「世界適塾構想」の実現のためには、大学構成員それぞれが持っている力を発揮し、目の前の課題に着実に取り組んでいくことが不可欠です。来年度も、大阪大学の発展を担い、ともに考え、学び続けられる職員の育成に寄与する取り組みを続けていきます。



総長室PMT

表彰・受賞等

平成26年秋の勲章

江口順一 名誉教授 (法学部)	
一岡芳樹 名誉教授 (工学研究科)	瑞宝中綬章
二井將光 名誉教授 (産業科学研究科)	
木村宏 (元大阪大学職員)	
梅田幸治 特任教授 (安全衛生管理部)	瑞宝双光章

日本学術振興会賞

情報科学研究科	原隆浩 准教授
生命機能研究科	石井優 教授

平成26年度医学教育等関係業務功労者表彰 (文部科学大臣表彰)

歯学部附属病院	多賀義晃 歯科技工士
医学部附属病院	和田崇男 調理士

受賞等

附属図書館	安田喜行 主任	人命救助により高槻市消防本部から表彰
文学研究科	工藤真由美 教授	第33回 新村出賞
	市大樹 准教授	「第2回古代歴史文化賞」大賞
医学系研究科	村松里衣子 准教授	第三回「明日の象徴」研究者部門 (明日の象徴事務局主催)
	高静花 助教	第4回ジョンソン・エンド・ジョンソン コンタクトレンズ リサーチ アワード
医学部附属病院	高階雅紀 材料部部长	第15回滅菌供給世界会議 (World Forum for Hospital Sterile Supply:WFHSS2014) Lifetime Achievement Award
歯学研究科	作田守 名誉教授	Elmer S. Best Memorial Award
薬学研究科	水口裕之 教授	2014年度バイオインダストリー協会賞
工学研究科	北山研一 教授	情報化促進貢献個人等表彰 (総務大臣賞)
	佐々木孝友 名誉教授 光科学センター・特任教授	第14回山崎貞一賞 (材料分野)
	森勇介 教授	
	吉村政志 准教授	
	今西正幸さん (D2)	
	村上航介さん (D3)	第4回 (2014年秋季) 応用物理学会 Poster Award
	今林弘毅 研究員	
	丸山美帆子 特任助教 (常勤)	
	今出完 助教	
	吉村政志 准教授	
	森勇介 教授	
	今出完 助教	日本結晶成長学会 第21回技術賞
	吉村政志 准教授	
	丸山美帆子 特任助教 (常勤)	
	森勇介 教授	一般社団法人日本レオロジー学会 論文賞
	山本剛宏 准教授	
基礎工学研究科	井手口裕太さん (D1)	IVRC2014川上記念特別賞および未来観客賞
	長坂信吾さん (M2)	
	和田章宏さん (M2)	
	加藤高浩さん (M1)	
	上西健太さん (M1)	
	川口純輝さん (M1)	
	古澤大樹さん (M1)	
	青木拓也さん (M1)	Biomedical Molecular Imaging 2014 Coherent Best Paper Award

基礎工学研究科	蛭川知可子さん (M2)	日本光学会年次学術講演会 Optics & Photonics Japan 2014 第10回OPJ ベストプレゼンテーション賞
	久保井亮一 名誉教授	分離技術会 業績賞
	井村誠孝 准教授	日本バーチャルリアリティ学会 論文賞
	大城理 教授	日本バーチャルリアリティ学会 論文賞
	西竜志 准教授	2014 IEEE International Conference on Industrial Engineering and Engineering Management OUTSTANDING PAPER AWARD
	吉田興広さん (M1)	
言語文化研究科	西田理恵子 准教授	外国語教育メディア学会論文賞
生命機能研究科	吉森保 教授	柿内三郎記念賞
	稲井瑞穂さん (M1)	平成26年度日本レーザ医学会総会賞
産業科学研究所	谷口正輝 教授	第75回応用物理学会秋季学術講演会 2014年ポスター賞
	川合知二 特任教授	
	筒井真楠 准教授	
	近藤孝文 助教	第11回電離放射線と高分子国際会議ベストポスター賞
	笹井宏明 教授	モレキュラーキラリティアジア2014ポスター賞
	竹中和浩 助教	
	長島一樹 特任助教 (常勤)	日本粉体工業技術協会研究奨励賞
	谷口正輝 教授	ナイスステップな研究者
核物理研究センター	Yasid Ayyad 特任研究員 (常勤)	国際会議ARIS2014ポスター賞
	Ong Hooi Jin 特任講師 (常勤)	第9回 (2015年)日本物理学会若手奨励賞
サイバーメディアセンター	黒田嘉宏 准教授	日本バーチャルリアリティ学会 論文賞
情報推進部	山口文雄 課長補佐	第23回全国共同利用情報基盤センター長会議 功績賞
安全衛生管理部	山本仁 教授	中央労働災害防止協会 平成26年度緑十字賞 (産業安全及び労働衛生)
環境サークル GECS	McK (まちをきれいに) 班	第12回全国大学生環境活動コンテスト (エココン) グランプリ環境大臣賞
	環境教育班	第12回全国大学生環境活動コンテスト (エココン) 入賞

— 第9回大阪大学総長による表彰 —

人間科学研究科	日野林俊彦 教授	工学研究科	近藤俊之 助教
	金澤忠博 教授		藤井伸幸 技術専門職員
	清水真由子 助教	基礎工学研究科	石黒浩 教授
理学研究科	寺田健太郎 教授		久武信太郎 助教
	藪田ひかる 助教		花崎逸雄 助教
医学系研究科	金井好克 教授		前野禪 助教
	齋藤茂芳 助教	産業科学研究所	笹井宏明 教授
歯学研究科	峯篤史 助教		川合知二 特任教授 (常勤)
歯学部附属病院	多賀義晃 歯科技工士		滝澤忍 准教授
工学研究科	山本剛宏 准教授		服部梓 助教
	牛尾知雄 准教授	接合科学研究所	近藤勝義 教授
	小椋智 助教	総務企画部	片岡伸介 専門職員

— 業務改善アイデア賞 —

微生物病研究所	藤原瞳 事務職員	提案課題：水質汚濁防止法・下水道法にかかる特定施設届け出書類作成業務の効率化・省力化
---------	----------	--

— 平成26年度永年勤続表彰者 —

未来戦略支援事務局	二瓶智英
総務企画部総務課	中川優
総務企画部人事課	瀬尾哲也
	北風好章
	辻中伸幸
総務企画部国際交流課	川添勝仁
研究推進部産学連携課	蘭部孝夫
研究推進部COI事業支援事務局	祖父江智香
財務部資産決算課	菊畑裕信
情報推進部情報企画課	橋野勝
情報推進部情報基盤課	宮永勢次
教育推進部教育企画課	山崎尚美
施設部整備課	安井孝二
監査室	宇江茂
不正使用防止計画推進室	堅田純子
全学教育推進機構等	大須賀裕之
附属図書館図書館企画課	田原勝典
附属図書館学術情報整備室	徳永智子
理学研究科	大宮典弘
	尾下香織
医学系研究科総務課	田中雅士
医学部附属病院	堀井菜緒子
	松山ゆりえ

医学部附属病院	野瀬恵美子
	古庄礼子
	荒木恵里
	太田悦子
	米澤栄
	竹原経子
	山根洋子
	玉置富子
	源秀子
	花田浩之
医学部附属病院管理課	於勢友
医学部附属病院医事課	内藤雅志
歯学研究科総務課	石川健男
歯学研究科業務課	畦西克己
歯学部附属病院	川尻節子
工学研究科経理課	山本光一
工学研究科教務課	澤本加奈子
基礎工学研究科	於勢直子
	東堤享子
言語文化研究科・外国語学部質面事務室	曾我克成
生命機能研究科	垣本晋吾
微生物病研究所	坂上明弘

人 事

— 新教授 —

平成26年11月16日 宮原暁	【所 属】グローバルコラボレーションセンター 研究推進部門 【最終学歴】H4.3 東京都立大学大学院社会科学部社会科学部社会人類学専攻 (修士課程) 修了	【前職】本学准教授
平成27年1月1日 高橋照彦	【所 属】文学研究科文化形態論専攻 考古学講座 【最終学歴】H3.3 京都大学大学院文学研究科(修士課程) 考古学専攻修了	【前職】本学准教授
平成27年1月1日 光岡薫	【所 属】超高压電子顕微鏡センター 【最終学歴】H6.3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了	【前職】(社) バイオ産業情報化 コンソーシアムから

訃 報

工学研究科	井本正介 名誉教授	平成26年 9 月22日 逝去
理学研究科	齋藤基彦 名誉教授	平成26年 10月10日 逝去
レーザーエネルギー学研究センター	萩行正憲 教授	平成26年 10月25日 逝去
工学研究科	庄野利之 名誉教授	平成26年 11月11日 逝去
	村田暹 名誉教授	平成26年 12月 9 日 逝去

教職員インタビュー



職種や世代を超えて活動 演奏を通じてリフレッシュ

大阪大学室内楽アンサンブル OUCE (Osaka University Chamber Ensemble)

学内で活動する室内楽アンサンブルのグループがあるのをご存じでしょうか。平成 17 年 4 月の活動スタートから 10 年目を迎える長寿サークルです。グループの活動について伺いました。

どのようなグループですか？

平成 17 年 4 月に、当時工学研究科の甲斐泰教授（現在名誉教授）が発起人となり、クラシック音楽のアンサンブル演奏を目的として 10 名程で発足しました。構成メンバーが教職員と大学院生ということで幅広い職種、年齢で構成されるという点が特徴です。学内には学部生を中心に活動している部活動やサークルがありますが、教職員や大学院生が活動できる場として全国の国立大学でもめずらしい貴重な存在になっています。

どのような活動をしていますか？

活動の中心は年に2回、5月のいちょう祭と11月の吹田祭の季節に合わせてコンベンションセンターの MO ホール（吹田キャンパス）で開催する演奏会です。アンサンブルということで、6グループ程度（1グループ3名～6名程度）の構成で演奏します。各楽器を一人ずつ担当するなど各人の役割が大きくなるため練習にも熱が入ります。

現在は 5 月のいちょう祭に向けて、参加できるメンバーを調整したり、演奏する曲を決めたりとプログラム作成が本格化していく時期です。今年は活動スタートから 10 年を迎えるにあたり節目にふさわしいプログラムにしたいと考えています。また、もともと小さいお子様にも聴いてもらえる演奏会なのですが、より楽器に興味を持ったり、飽きずに聴いてもらえるような工夫を取り入れたいと思っています。

練習はどのようにされていますか？

月 1 回コンベンションセンターを借りて練習しています。研究や業務で多忙なメンバーが集まって練習することはなかなか難しいため、学内で練習場所が確保でき、とても助かっています。限られた時間を有効に活用してこれからいちょう祭に向けて各グループの練習が本格化していきます。

長い活動の中で変化はありましたか？

このグループが一番大切にしていることとして「地域の方との連携や協力」というテーマがあります。毎回地域の多くの方々にご来場いただき、来場者も徐々に増えてきています。リピーターの方も多く、アンケートなどで、「次の演奏会も楽しみにしています」という声が届くと、とてもやりがいを感じます。



左から、インタビューに協力してくれた吉田亜紀さん（情報科学研究科情報ネットワーク学専攻）、藤井良子さん（総務企画部人事課企画第一係）、徳嶺絢子さん（広報・社学連携オフィス広報課広報係）。

団長・甲斐名誉教授からのメッセージ

大学のすべての構成員が参加し、ともに努力し協力しあって自分たちの音楽を作り出していく、その過程で生まれる共感や連帯そして感動を積み上げていくことにより、大学の活性化や地域連携に資することを目指してきました。大阪大学はじめ音楽を愛する多くの人たちに支えられた 10 年でした。これからもよろしく願いいたします。

次回演奏会のお知らせ

日時：平成 27 年 5 月 3 日（日） 14：00 ～
場所：コンベンションセンター MO ホール

メンバー募集・お問い合わせ

室内楽を演奏できる楽器はすべて募集中です。演奏してみたい曲をどんどん提案してください。音楽を楽しむことをモットーに活動していますので、一緒に音楽を楽しみましょう。
URL：http://orchestra.musicinfo.co.jp/~ouce/
連絡先：工学研究科 四宮良美
内線：(工)7397、Mail：shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp

*阪大の教職員の方で、「こんなすごい特技がある人がある」「ユニークな資格を持っている」など、他の人にも紹介したい「すごい阪大人」をご存じでしたら、広報課までお知らせください。

各部局に残る歴史遺産

キャンパスミュージアムツアー

大阪大学には、部局に残る資料や史料を、独自のミュージアムで展示している学部・研究所があります。今回は豊中キャンパスの理学部、吹田キャンパスの医学部・工学部・微生物病研究所を取材しました。ここでしか見ることのできない貴重な展示品の数々をご紹介します。

キャンパスミュージアムツアー

理学部F棟・H棟

理学部では、いくつかの建物の玄関部分で展示を見ることができます。

F棟では、まず建物に入る前に、天井を見上げてみましょう。そこには、天の北極を中心とする北天の星空が広がっています。壮大な宇宙のロマンを感じながら、太陽に対する地球の位置や運動、銀河系の構造について、ぜひ考えをめぐらせてみてください。さらにF棟の中に入っていくと、玄関ロビーでは岩石、鉱物、化石の大型標本が直に手で触れられます。国の登録記念物「マチカネワニ」化石の下顎レプリカもありますので、そっと触ってみてください。これら地球の歴史を今に伝えているものや、地球を構成しているものに触れてみると、その造形の不思議さや自然の息吹を感じることができるでしょう。

H棟の玄関ホールには「フーコーの振り子」が展示されています。振り子の運動をしばらく眺めていると、振動している面がゆっくりと時計まわりに回転しています。このような振り子の動きから、地球が自転していることがわかるのです。



見上げると星空が (F棟玄関ロビー)



じっくりと眺めてみたい
フーコーの振り子
(H棟玄関ロビー)

豊中キャンパス

理学部 F棟玄関ロビー・H棟玄関ロビー

*F棟玄関ロビー展示について

<http://www.ess.sci.osaka-u.ac.jp/lobby/lobby-top.html>

キャンパスミュージアムツアー

医学部医学史料展示室

銀杏会館の1階にある医学史料展示室では、緒方洪庵の適塾にまでさかのぼる医学部の長い歴史を、時代を追ってわかりやすく紹介しています。展示品は緒方洪庵の「扶氏医戒之略」をはじめ、かつて実際に使われていた手術器具、医学部の発展に寄与した人物の彫像など、大変バラエティに富んでいます。なかでも卒業生ゆかりの品にはユニークなものがたくさんあります。たとえば、20世紀の初めに瀬良好太が「パブロフの犬」の実験で知られるパブロフ教授のもとを訪れ、条件反射の実験に立ち会い、その記念に贈られた《イヌの胃液》を見ることができます。また、医学専門部時代の卒業生として有名な手塚治虫が、1958年に当時の医学部長・市原硬先生を描いた肖像画も展示されています。ここでは、適塾の時代から今にいたるまで医学部で脈々と受け継がれてきた、進取の気風と自由闊達な精神の足跡をたどることができるでしょう。



今も清楚透明な
パブロフの犬の胃液



手塚治虫が描いた
かつての医学部長の姿

吹田キャンパス 銀杏会館1F

開館時間：平日 午前9時30分～午後4時30分/入場無料

<http://www.office.med.osaka-u.ac.jp/>

icho/museum-jp.html

キャンパスミュージアムツアー

工学部ギャラリー

工学部ギャラリーでは、工学部の歴史と最新の研究成果を紹介しています。歴史展示のコーナーでは、明治から大正、昭和、平成にかけて工学部が歩んできた道のりを、壁一面に設置された年表によってたどっていくことができます。また、最新の研究成果を紹介するコーナーでは、パネル展示とケース展示により、さまざまな分野の研究内容を解説しています。ふだん目にするることのできない試作品や研究試料なども見ることができ、広範囲にわたる「工学」の魅力を伝えています。過去と現在を繋ぐこのギャラリーのイチオシは、歴史展示コーナーの年表の真ん中に設置されたモニターです。ここでは、各年代に撮影された貴重な映像や写真を見ることができます。当時の実験風景や、何気ない日常、躍動感あふれる課外活動の様子など、じっくりと鑑賞しながら工学部の歴史に思いを馳せてみてください。



今も昔も楽しそうな学生生活



工学部の歩みを
ふりかえってみよう

吹田キャンパス

工学研究科 GSEコモモンウェスト(U1W)1階ロビー

開館時間：平日 午前9時～午後5時/入場無料

<http://www.eng.osaka-u.ac.jp/ja/outline/gallery.html>

キャンパスミュージアムツアー

微研ミュージアム

2010年に開館した微研ミュージアムは、コンパクトな展示空間ながらも、一つ一つの展示品が非常に個性的なミュージアムです。フィギュアの制作で世界的に有名な海洋堂が、5か月もの制作期間を費やしてつくったリアルティ溢れるウィルス模型や、寄生虫のサンプルコレクションなど、一度見たら忘れることのできない迫力ある展示がここでは見られます。また、近代細菌学の開祖、ロベルト・コッホに、門下生の北里柴三郎らが贈った顕微鏡など、由緒正しい品も目にするすることができます。さらに、ウィルスや毒素の3次元イメージを楽しむことができるデジタル展示のコーナーもありますので、ぜひ立体メガネをかけて、出現するイメージを体感してみましょう。

ミュージアム内は写真撮影自由ですので、あなたらしい一枚をカメラにおさめてみてください。受付では展示品の図版や微研の歴史などをまとめたパンフレットももらうことができます。来館の思い出にぜひお持ち帰りください。



3Dイメージを
立体メガネで見てみよう



忠実に再現された
ウイルス

吹田キャンパス 微生物病研究所1F

開館時間：平日 午前9時～午後5時/入場無料

<http://museum.biken.osaka-u.ac.jp/>

今回のミュージアムツアー、楽しんでいただけましたでしょうか？ あなたの部局の資料室情報、他の人にも紹介したいお気に入りの展示品などをご存じでしたら、ぜひ広報課までお知らせください。

東京メトロ「虎ノ門駅」に東京オフィス案内を設置

11月1日(土)、東京メトロ「虎ノ門駅」5番、11番階段へと通じる地下歩道に電照看板広告を設置しました。昨年3月に首都圏における大阪大学の活動の拠点として開設した「大阪大学東京オフィス」の案内のために設置したものです。

銀杏は、本学の学章であるとともに、東京都のシンボルマークでもあり、この看板を目にした際、東京だけでなく、大阪大学も思い起こす契機になればとの期待を込めています。



「大阪大学保護者の集い」を開催

大学祭(まちかね祭)開催期間中の11月2日(日)、大阪大学会館において、学部1年生の保護者を対象とした「保護者の集い」を開催しました。

本学初の催しで、保護者の方に大学運営の実情や本学の教育・研究内容等について理解を深めていただくとともに、子ども達が通う大阪大学をより身近な存在に感じていただくことを目的として実施しました。

初めての試みでしたが、遠方からの参加者も多く約 500 名の方にご参加いただきました。



大阪大学上海同窓会・咲耶会上海支部の合同同窓会を開催

11月2日(日)、中国上海市内で、大阪大学上海同窓会・咲耶会上海支部の合同同窓会が開催されました。約 50 名が参加し、本学からは、岡村康行理事・副学長、澤芳樹医学部附属病院国際医療センター長、中田研同副センター長、大谷順子東アジアセンター長が参加しました。交換留学中の現役阪大生も参加し、年代を超えて交流を深めました。

また、9月13日に台北、10月12日にウランバートル、10月16日に香港で同窓会が開催され、それぞれの地域で同窓生のネットワークが広がっています。



大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット」開催

11月16日(日)、マチカネワニ化石が発見されてから50年になることを記念した、大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」を豊中市立アクア文化ホールで開催しました。

第1部の米国アイオワ大学のクリストファー・プロシュエ准教授の基調講演に始まり、第2部では早稲田大学の武川愛氏、栃木県立博物館の河野重範研究員、北海道大学の小林快次准教授、飯島正也氏、大阪市立自然史博物館の林昭次学芸員、和歌山県立自然博物館の小原正顕主査学芸員が講演し、第3部では本学の江口太郎招へい教授をファシリテーターとしたパネル討論が行われ、マチカネワニを中心とした化石研究の現状を紹介するとともに、残されている謎をわかりやすく議論しました。また、関連企画としてパネル展示のほか、ゆるキャラ撮影会やリサイクルアート(桜塚高等学校)、マチカネワニブギの発表会(ピアノ演奏:宮本貴奈氏、出演:てしま幼稚園園児、豊中市公民分館関係者、マチカネくん)など、豊中市と連携した催しも行われました。



クリストファー・プロシュエ
米国アイオワ大学准教授

適塾で瞽女唄の演奏

大阪大学の原点である史跡・重要文化財「適塾」がある一帯は、その昔「船場」と呼ばれ、大坂の町人文化の中心となったところでした。この街に息づく歴史と豊かな文化の地「船場」で行われた「船場博覧会 2014」(11月18日~23日)のイベントで、11月19日(水)、瞽女(ごぜ)さんが適塾を訪れ、瞽女唄(国の選択無形文化財)を披露しました。

「瞽女」とは、生業として三味線を携え日本各地、主に新潟から山形にかけて旅した盲目の女性芸能者で、江戸時代から昭和の初頭まで活動されていたとのこと。

このイベントは、当時の姿を再現し、歴史ある場所などで門付けをするという企画で、適塾で行われたものです。当日、適塾にいられていた方々はこのサプライズに、貴重な体験ができたなどと感激した様子でした。



「大阪大学の集い」を開催

12月5日(金)、関東に在住・勤務する卒業生や大阪大学関係者が一堂に会する「大阪大学の集い」を学士会館で開催し、卒業生や教職員 OB、現役教職員・学生約 270 名の参加がありました。

平野俊夫総長から近況報告、熊谷信昭大阪大学同窓会連合会会長(元総長)による挨拶の後、大竹文雄理事・副学長(経済学研究科修了)により「実務に活かす行動経済学」と題して、人間の行動選択と経済学的考え方についての講演が行われました。

今年は例年に比べ若手卒業生の参加が目立ち、会場内では、先輩・後輩が名刺交換をする姿やクラブ・サークルでのできごとや在学中の思い出・近況について語り合う様子があちこちで見受けられました。



正田杯争奪駅伝大会を開催

12月5日(金)、第55回正田杯争奪駅伝大会(通称「正田杯」)が吹田キャンパスで開催され、曇天で強風の中、学生や教職員約 60 チームが1周 4.1km のコースを4周タイムを競いました。

男子は、「宮野、部活やめるってよ」、女子は「チームたかよ」がその栄冠を手に入れました。趣向を凝らした賞として、最も面白い格好・パフォーマンスを行ったチームに与えられるベストパフォーマンス賞もあり、クリスマス関係の仮装をした「米米倶楽部」が勝ち獲りました。



[阪大トリビア]

吹田キャンパスには大阪万博(EXPO'70)の記念物が残されています。左の写真は何に使われていたのでしょうか?(答えは49ページ)

①太陽の塔 ②大屋根 ③アメリカ館 ④日本館 ⑤鉄鋼館

2014、ガンバ大阪が3冠チャンピオンに！

昨年5月に大阪大学とフレンドシップ協定を締結したガンバ大阪が、2014 の J1 リーグ優勝、ヤマザキナビスコ杯優勝、天皇杯優勝の3タイトルを獲得しました。J1 リーグへの復帰後 1 年目での快挙です。大阪大学は医療や健康、スポーツ科学などの分野で選手、チームをサポートし、ガンバ大阪との一層の交流を進めていきます。



フレンドシップ協定締結式で平野俊夫総長と野呂輝久社長(右)(平成26年5月20日)



J1リーグ優勝(ガンバ大阪提供)

URA メルマガ版「2014 年重大ニュース」

大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室 URA チームは、研究推進や URA 活動などの最新情報を紹介するメールマガジンを、毎月1回発行しています。

2014 年 12 月発行の vol.15 では、「大学・研究」という題で阪大教職員 10 人の方からお寄せいただいた「2014 年重大ニュース」を掲載し、個々の出来事や思いから 2014 年をふり返りました。

各ニュースの詳細は、下記のホームページからご覧いただけます。

今年一年も皆さまにとって実りあるものになりますように。

URL http://www.ura.osaka-u.ac.jp/uramagazine/vol_015.html

歴史的偉業・糸谷哲郎新竜王誕生
石黒浩特別教授が Science 誌の表紙に
基礎研究と臨床研究を繋ぐ「場」としての未来知創造プログラム
大阪からの新たな世界史像の構築をめざして —大阪大学未来戦略機構 第九部門（グローバルヒストリー研究部門）発足
クラブ活動が公式な学生交流（病院実習）へ
「出版梓会新聞社会学芸文化賞特別賞」を受賞
今年は世界結晶年 2014 !大阪大学は結晶学研究もすごいんです。
グランフロント大阪との初コラボ実現!研究ときめき*カフェ in ナレッジキャピタル
脱・同調（総長室長の仕事をふりかえって）
大阪大学国際共同研究促進プログラムにより、22 の国際ジョイントラボ設立



退職教授の記念講義

平成 27 年 3 月 31 日限りで定年等で退職される教授の記念講義（最終講義等）を日程等が決まったものについてお知らせします。最新情報は、本学公式ホームページ「イベント情報」で随時更新します。

部 局 (講座・部門等)	氏 名	日 時 ・ 場 所	講 義 題 目
文学研究科 文化表現論専攻 日本語学講座	工藤 眞由美	平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:00 ~ 17:00 豊中総合学館 402 教室	言語の多様性と文法研究
文学研究科 文化形態論専攻 日本史学講座	平 雅行	平成 27 年 3 月 22 日 (日) 14:00 ~ 16:00 文法経研究講義棟 4 階 文 41 講義室	顕密体制論と私
理学研究科 生物科学専攻 生物物質学講座	倉光 成紀	平成 27 年 3 月 7 日 (土) 15:00 ~ 大阪大学会館 講堂	一つの細胞全体の生命現象を、化学で理解することを目指して
理学研究科 高分子科学専攻 高分子構造・物性・機能論講座	原田 明	平成 27 年 3 月 9 日 (月) 15:00 ~ 16:30 理学部本館 D 棟 5 階 D501 大講義室	超分子ポリマー：物質と生命の間
理学研究科 数学専攻 代数学講座	臼井 三平	平成 27 年 3 月 13 日 (金) 13:00 ~ 14:30 理学部本館 D 棟 5 階 D501 大講義室	おかげさまで
理学研究科 数学専攻 大域数理学講座	満洲 俊樹	平成 27 年 3 月 13 日 (金) 14:45 ~ 16:15 理学部本館 D 棟 5 階 D501 大講義室	私の数学者人生
医学系研究科 保健学専攻・統合保健看護科学分野 生命育成看護科学講座	藤原 千恵子	平成 27 年 2 月 6 日 (金) 15:30 ~ 17:00 保健学科講義棟第 1 講義室	小児看護学の教育と研究に携わって
医学系研究科 保健学専攻・統合保健看護科学分野 生命育成看護科学講座	永井 利三郎	平成 27 年 2 月 13 日 (金) 15:30 ~ 17:00 保健学科講義棟第 1 講義室	障害児のもつ課題と支援に取り組んで
歯学部附属病院 障害者歯科治療部	森崎 市治郎	平成 27 年 3 月 5 日 (木) 16:00 ~ 17:00 歯学研究科 D 棟 4 階大講義室	スペシャルニーズデンティストリー 道なかば
薬学研究科 医療薬学専攻 臨床薬学治療科学講座	松田 敏夫	平成 27 年 2 月 6 日 (金) 14:30 ~ 16:00 薬学研究科 2 号館 4 階特別講義室	創薬を目指してマウスのところをみる
工学研究科 応用化学専攻 分子創成化学講座有機工業化学領域	明石 満	平成 27 年 2 月 2 日 (月) 10:30 ~ 11:45 コンベンションセンター MO ホール	ビルディングブロックケミストリー
工学研究科 応用化学専攻 分子創成化学講座子相関化学領域	井上 佳久	平成 27 年 2 月 2 日 (月) 13:00 ~ 14:15 コンベンションセンター MO ホール	光、超分子、キラリティー：宇宙空間からナノ空間まで
工学研究科 応用化学専攻 物質機能化学講座機能有機化学領域	平尾 俊一	平成 27 年 2 月 2 日 (月) 14:30 ~ 15:45 コンベンションセンター MO ホール	機能有機化学の道を歩んで
工学研究科 生命先端工学専攻 物質生命工学講座生命物理化学領域	福住 俊一	平成 27 年 2 月 2 日 (月) 16:00 ~ 17:15 コンベンションセンター MO ホール	電子移動化学の発展とともに 43 年
工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 量子エネルギー工学講座原子力社会工学領域	中村 隆夫	平成 27 年 2 月 3 日 (火) 15:15 ~ 16:15 産業科学研究所 講堂	原子力発電所と共に歩いた 40 年 —新たな原子力時代に向けて—
工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 量子エネルギー工学講座システム量子工学領域	堀池 寛	平成 27 年 2 月 3 日 (火) 16:30 ~ 17:30 産業科学研究所 講堂	実験工学—大規模装置ものづくり学—
工学研究科 電気電子情報工学専攻 エレクトロニクスデバイス講座有機エレクトロニクスデバイス領域	大森 裕	平成 27 年 2 月 6 日 (金) 16:30 ~ 17:30 工学研究科 E1-115 (メモリアルホール)	有機の光源を求めて
工学研究科 生命先端工学専攻 物質生命工学講座 極限生命工学領域	金谷 茂則	平成 27 年 2 月 20 日 (金) 13:30 ~ 15:00 工学研究科 C3-531 (サントリーメモリアルホール)	RNA/DNA 二本鎖の RNA を解する酵素
工学研究科 生命先端工学専攻 生物工学講座ゲノム機能工学領域	原島 俊	平成 27 年 2 月 20 日 (金) 15:30 ~ 17:30 工学研究科 C3-531 (サントリーメモリアルホール)	酵母バイオテクノロジーの発展とともに 40 年
基礎工学研究科 システム創成専攻・電子光科学領域・ 光エレクトロニクス講座	占部 伸二	平成 27 年 3 月 5 日 (木) 15:00 ~ 16:30 基礎工学 国際棟シグマホール	原子周波数標準の研究からイオンを用いた量子 情報処理の研究まで
基礎工学研究科 機能創成専攻・生体工学領域・ 生体計測学講座	荒木 勉	平成 27 年 3 月 6 日 (金) 15:00 ~ 16:15 大阪大学会館 講堂	作業着と白衣を両手に光計測 40 年
基礎工学研究科 太陽エネルギー化学研究センター 機能物質化学領域	松村 道雄	平成 27 年 3 月 6 日 (金) 15:30 ~ 17:00 基礎工学 国際棟シグマホール	化学を基礎にした太陽エネルギー利用の科学
基礎工学研究科 システム創成専攻・システム科学領域・ 知能システム構成論講座	西田 正吾	平成 27 年 3 月 11 日 (水) 16:00 ~ 17:30 基礎工学 国際棟シグマホール	システム工学、ヒューマンインタフェース工学に取り 組んだ 40 年を振り返って
言語文化研究科 言語文化専攻 言語情報科学講座	渡部 眞一郎	平成 27 年 2 月 12 日 (木) 16:30 ~ 言語文化 A 棟大会議室	言語と反復
情報科学研究科 マルチメディア工学専攻 ビジネス情報システム講座	薦田 憲久	平成 27 年 1 月 29 日 (木) 15:30 ~ 17:00 コンベンションセンター 会議室 1	知恵の実現を目指して
生命機能研究科 生命機能専攻 ナノ生体科学講座	河村 悟	平成 27 年 3 月 6 日 (金) 16:00 ~ 17:00 生命機能研究科ナノバイオロジー棟 3 階セミナー室	未定
産業科学研究所 励起物性科学研究分野	谷村 克己	平成 27 年 3 月 4 日 (水) 15:30 ~ 17:00 産業科学研究所 管理棟 1 階 講堂	励起物性科学への道

サイエンスカフェ@待兼山



大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気で、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

開催日時：1月24日（土）～3月14日（土）までの毎週土曜日
開催場所：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

定 員：各回とも30名程度

参加費用：飲み物代(200円)が必要。

参加方法：各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前。Webフォームあるいは往復ハガキにてお申し込みください。
(<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>)

問合せ先：総合学術博物館 Tel：06-6850-6284 ※1月15日以降開催のものについて掲載しています

Handai-Asahi 中之島塾（2015年1月期）



開催日時：1月17日（土）～2月28日（土）

開催場所：大阪大学中之島センター

講 師 等：①高島幸次（CSCD 招へい教授）②中川晋作（薬学研究科教授）③小矢野哲夫（言語文化研究科教授）
④清水（加藤）真由子（人間科学研究科助教）⑤朝野和典（医学部附属病院教授）

参加方法：朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブページまたは
電話（TEL：06-6222-5224）により申込（随時受付）。
受講料1,620円（全2回の講座は3,240円）朝日カルチャーセンター入会金は不要。
問合せ先：21世紀懐徳堂 TEL：06-6850-6443

“Immunology at the Forefront”

The 6th International Symposium of IFReC, Osaka University

開催日時：2月23日（月）～24日（火） 10:00-17:00

開催場所：ナレッジシアター（グランフロント大阪 北館4階）

講 師：国際的にトップレベルにある内外の免疫学の研究者17名

参加方法：ウェブ (<http://www.ifrec.osaka-u.ac.jp>) において参加登録が必要。シンポジウムの参加費は無料。

問合せ先：大阪大学免疫学フロンティア研究センター（IFReC） ifrec-sympo@ifrec.osaka-u.ac.jp

※24日の19時からグランフロント北館1階 CAFÉ Lab において、癌免疫療法をテーマにしたサイエンスカフェを行います
（同時通訳あり・事前登録必要）。

大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」vol.56

「発生学的鶏料理考」

開催日時：2月27日（金） 18:30～21:00

開催場所：大阪ガスクッキングスクール千里（千里中央駅スグ 豊中市新千里東町1-3-141 せんちゅうPAL1F）

講 師：仲野 徹（大阪大学大学院医学系研究科・教授／生命機能研究科・教授）

参加方法：大阪ガスクッキングスクールウェブページ（1/4～26）または電話（1/7～26）により申込。
定員28名（申込多数の場合は抽選）。15歳以上。受講料2,100円。

大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」vol.57

「台所から世界を変える／食べる／考える 大英帝国プディングとローストビーフ」

開催日時：3月24日（火） 18:30～21:00

開催場所：大阪ガスクッキングスクール千里（千里中央駅スグ 豊中市新千里東町1-3-141 せんちゅうPAL1F）

講 師：橋本順光（大阪大学大学院文学研究科・准教授）

参加方法：大阪ガスクッキングスクールウェブページ（2/1～24）または電話（2/9～24）により申込。
定員28名（申込多数の場合は抽選）。15歳以上。受講料2,100円。

問合せ先：申込は、大阪ガスクッキングスクール千里 TEL：06-6871-8561

講座内容についての問合せは、大阪大学21世紀懐徳堂 TEL：06-6850-6443



第1回「大阪大学特別教授」による講演会

特別教授 原田 明 教授（理学研究科）

開催日時：2月26日（金） 17:30～18:45

開催場所：大阪大学会館 講堂（豊中キャンパス）

サテライト会場：【吹田キャンパス】銀杏会館 三和ホール（3階）
【中之島センター】佐治敬三メモリアルホール（10階）
【東京 オフィス】東京・霞が関

第2回「大阪大学特別教授」による講演会

特別教授 福住 俊一 教授（工学研究科）

開催日時：3月23日（月） 17:30～18:45

開催場所：大阪大学コンベンションセンター MO ホール（吹田キャンパス）

サテライト会場：【豊中キャンパス】大阪大学会館 講堂（3階）
【箕面キャンパス】プレゼンテーションルーム（研究講義棟B棟1階）
【中之島センター】佐治敬三メモリアルホール（10階）
【東京 オフィス】東京・霞が関

参加対象：学生、教職員

参加方法：事前申込不要・先着順・参加費無料 ※パソコン文字通訳、車椅子用のスペースがあります（メイン会場のみ）

問合せ先：未来戦略支援事務室総務係
TEL：06-6210-8244 FAX：06-6210-8241 Email：mirai-talk@iai.osaka-u.ac.jp

奥田靖雄著作集出版記念・国際シンポジウム

開催日時：3月7日（土） 10:30～（受付開始10:00～）

開催場所：文法経棟42教室（豊中キャンパス）
（午前の部）奥田靖雄紹介：湯本昭南、講演：彭広陸、仁田義雄、鈴木泰
（午後の部）著作集紹介：佐藤里美、「奥田靖雄論文を読む」：宮崎和人、鄭相哲、工藤真由美

参加方法：事前申し込み不要、参加費2,000円（資料代）

問合せ先：文学研究科日本語学講座・工藤真由美 Email：kudo@let.osaka-u.ac.jp

第76回大阪大学フランス語フランス文学会研究会

（赤木昭三・大阪大学名誉教授追悼シンポジウムおよび講演）

開催日時：3月7日（土） 13:30～17:00

開催場所：大阪大学文学部本館2階大会議室

講演者等：支倉崇晴、井上直子、廣田大地、山上浩嗣

問い合わせ：TEL：06-6850-5117

平成26年度大阪大学卒業式・大学院学位記授与式

開催日時：3月25日（水）11:00～12:40

9:30入場開始、10:30入場完了

開催場所：大阪城ホール

平成27年度大阪大学入学式

開催日時：4月2日（木）13:30～14:30

開催場所：大阪城ホール

大阪大学未来戦略フォーラム
Global University Rankings and Excellence Indicators Reexamined:Realities,
Challenges and Prospects
世界大学ランキングと国際的研究評価を問う



開催日時：2月6日（金） 13:00～17:30
開催場所：千里阪急ホテル（クリスタルホール）
事前申込：iaiforum2015osaka-u.com
参加費用：なし（交流会は会費制）
問合せ先：大阪大学未来戦略機構戦略企画室（担当 鳥山）
TEL：06-6210-8269 E-mail：karasuyama-s@office.osaka-u.ac.jp

国際シンポジウム
～次世代医学アカデミア・データセンター情報基盤構築を目指して～
医学系研究科 臨床統計疫学寄附講座（共催者：医学部附属病院 未来医療開発部 データセンター）

開催日時：2月8日（日） 13:00～17:00
開催場所：大阪大学大学院医学系研究科附属最先端医療 イノベーションセンター棟1階 マルチメディアホール
講師：Paul HARRIS（米国・Vanderbilt大学）、Yu SHYR（米国・Vanderbilt大学）、新谷 歩（本学臨床統計疫学寄附講座）
参加方法：「参加申込書」をE-Mailで下記お問い合わせ先までお送りください。
講演参加費 無料（情報交換会 参加費 1,000円）
大阪大学医学系研究科 臨床統計疫学寄附講座 担当：木村、吉久保
TEL：06-6210-8373 E-mail：stat-symposium@stat.med.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来戦略機構第六部門（創薬基盤科学研究部門）国際シンポジウム
「アカデミア発創薬を目指した戦略展開」
「Innovative Approaches for Drug Development in Academia」

開催日時：3月3日（火） 13:30～17:50
開催場所：大阪梅田ナレッジシアター
問合せ先：大阪大学未来戦略機構第六部門（担当 竹市）
TEL：06-6879-7410 Email：takeichi@iai.osaka-u.ac.jp

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター京都シンポジウム

「ほんとの空が戻る日まで」
ー東日本大震災及び原発事故からの福島の闘いー

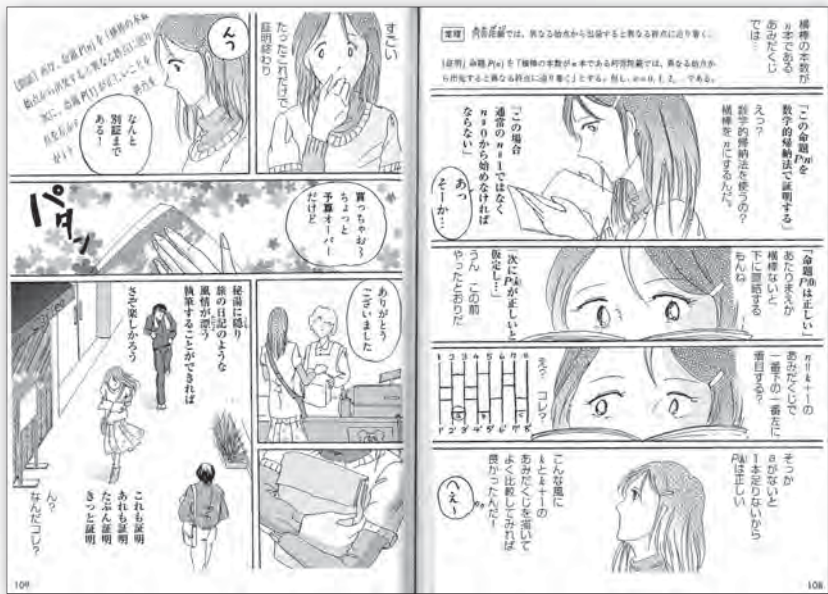
開催日時：3月8日（日） 12:00～17:20
開催場所：立命館大学朱雀キャンパスホール（京都市中京区西ノ京朱雀町1）
主 催：国立大学法人福島大学、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
共 催：立命館大学、国立大学法人大阪大学
講演者等：ジャーナリスト・堀潤氏による基調講演ほか、福島の現状報告やパネルディスカッションを予定。
問合せ先：福島大学うつくしまふくしま未来センター TEL：024-504-2833



文系向け教養数学テキストがコミックで登場
「コミック 証明の探究 高校編!」大阪大学出版会から発売

高校生の淡い恋話のなかに、ハッとさせられる数学や、大学や研究者の風景が織り込まれる、大阪大学の
共通教育数学テキスト『証明の探究』のコミック化。
「数学する」ことは証明すること、をモットーに、歴史に残る証明問題もコラムで掲載した、「受験数学、
教養の数学に必携」の数学書です。

漫 画：門田英子（科学コミュニケーター、物理学者）
原 作：日比孝之（大阪大学大学院情報科学研究科教授）
本体価格：1,300 円
問合せ先：大阪大学出版会 TEL：06-6877-1614
<http://www.osaka-up.or.jp/books/ISBN978-4-87259-471-3.html>



出版会トピックス

大阪大学出版会は1月16日に、優れた出版活動を継続して展開する出版社に贈られる「出版梓会新聞社学芸文化賞」特別賞を受賞しました。2014年の活動の中でも特に学生、教員、出版会の協働プロジェクト『ドーナツを穴だけ残して食べる方法 越境する学問一穴からのぞく大学講義』の刊行について手法のユニークさと学問の本質を問う内容が評価されたものです。

〔阪大トリビア〕の答え

② 接合科学研究所の玄関前に置かれているこのモニュメントは、1970年に千里丘陵で開催された日本万国博覧会（EXPO'70）のお祭り広場の大屋根の加構部材の一部です。幅108m、長さ290mの広さの大屋根を支える鋼材として使われていました。大屋根は当時世界最大級の鉄鋼建築物であったといえます。



写真提供：大阪府

大阪大学リーダーズフォーラム

大阪大学・大阪外国語大学を卒業ののち、社会の一線で活躍する経営者や組織代表の皆さまをお招きするビジネスフォーラム。
今回で3度目の開催です。大阪大学の「いま」をご紹介しますとともに、年代や分野を超えて、同窓生ならではの自由な情報交換やネットワーキングを進めていただきます。
開催日時：2月3日(火) 15:30～18:40
開催場所：大阪大学会館 講堂、アセンブリーホール(大阪大学豊中キャンパス 旧イ号館)
参加方法：本学ホームページ (<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/alumni/event>) からフォームをダウンロードしてお申込みください。
会費5,000円を当日、会場で申し受けます。
問合せ先：大阪大学卒業生室 TEL：06-6879-7196 Mail：sotsugyosei@office.osaka-u.ac.jp

「大阪大学カード」会員募集 事前申し込みにはプレゼント

大阪大学・大阪外国語大学の卒業生、教職員、元教職員だけが持つことができる特別なクレジットカード「大阪大学カード」(三井住友VISAカード株との提携カード)が、今春デビューします。
3月の受け付け開始に先立ち、事前申し込みキャンペーンを実施中。カード特典提携先の神戸クルーザー株からご提供の「ミュージック・グルメ船コンチェルト」平日ペア乗船招待券(通常4,400円。3月31日まで、土日祝以外の平日のみ有効)をプレゼントします。早めのお申し込みをお待ちしています。
<問い合わせ・申し込み先>
卒業生室 電話：06-6879-7196 FAX：06-6879-4337
Email：sotsugyosei@office.osaka-u.ac.jp
*お名前、所属等をお知らせいただければ、折り返し資料とプレゼントをお届けします。



神戸の街を海から眺めるクルーズ船コンチェルト

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

予告

大阪大学カード入会へのご招待

2015年春、「大阪大学カード」の発行を開始します。

「大阪大学ファミリー」のための特別な一枚

大阪大学カードは、大阪大学と大阪外国語大学の卒業生、教職員、元教職員だけが持つことができる、「大阪大学ファミリー」の証です。
カードフェイスは、学章などのシンボルマークをかたどった上品なモノグラム柄。
大阪大学のオリジナルデザインが魅力です。
このカードをぜひお持ちいただき、皆様とのさらなる飛躍を支えるプラットフォームとして、末永くご利用ください。

申込方法や気になるカード特典等の詳細は、大阪大学ホームページ等でお知らせします。
募集開始まで、今暫くお待ちください。

国立大学法人大阪大学
三井住友 VISA カード

	クラシックカード	ゴールドカード
年会費	●年会費 初年度 1,250円＋税 2年度 400円＋税	●年会費 初年度 10,000円＋税 2年度 1,000円＋税 (1人1枚無料)
年会費割引	●「マイ・ペイすリボ」をご利用の場合 ※年会費割引(初年度のみ)は適用外 ●「JAL」利用時、年会費の割引 ※年会費 1,000円割引	●「マイ・ペイすリボ」をご利用の場合 ※年会費割引(初年度のみ)は適用外 ●「JAL」利用時、年会費の割引 ※年会費 1,000円割引
追加カード	家族カード 学生カード 電子マネー「iD」(1枚限)・専用カード・携帯用	家族カード 学生カード 電子マネー「iD」(1枚限)・専用カード・携帯用
空港ラウンジ	—	国内主要空港のラウンジを無料で利用可能
海外旅行傷害保険	最高 5,000万円 ※利用条件あり	最高 5,000万円 ※一部利用条件あり
国内旅行傷害保険	—	最高 5,000万円 ※一部利用条件あり
万が一の安心保証	カードを利用した商品の盗難・紛失に際する補償に付する保証 ●年間補償総額上限 100万円 ●対象：国内での利用または分限払い(3日以上)・海外利用	カードを利用して購入した商品の盗難・紛失に際する補償に付する保証 ●年間補償総額上限 300万円 ●対象：国内利用・海外利用

使うほどに、母校の支えとなるカード

カードホルダーの皆様が大阪大学カードをご利用になると、その利用金額に応じた振替手数料が三井住友カード(株)から大阪大学に還元され、教育、研究、学生支援などに活用されます。

学章などをかたどったモノグラム柄のオリジナルデザイン

冬も節電。2xWarmで阪大エコ。

2xWarm

Warm Biz & Warm Smilesm

ウォームビズ実施期間：12月1日～3月31日

2xWarmキャンペーン2014モデル

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

Kyle Bedellさん
総務企画部国際交流課

澤田智子さん
未来戦略支援事務室総務係

下元由宇さん
財務部財務課財務第三係

戴田祥子さん
工学研究科機械工学専攻複合メカニクス講座

浅井和広さん
クリエイティブユニット

撮影・デザイン：クリエイティブユニット

【ポスター】

平成26年度 後期開講
節電法概論Ⅱ 担当教員 ワニ博士

部屋に誰もいないときは
電気を消す

使わないときは
電源を切る

暖房時の室温は
20℃に

電源使用の
目安から

電源を入れたままにするもの、
使わない時は切るもの、
区別をつける。

平成26年度冬季
節電・省エネ計画期間 H26.12/1～H27.3/31

デザイン：クリエイティブユニット

【シールとシール貼付例】

「節電・ウォームビズ啓発ポスター」は、環境・エネルギー管理部ホームページからダウンロードすることができます。冬季の節電・省エネルギー活動にお役立てください。
また、ワニ博士の節電シールも配布しております。ご希望の方は「環境・エネルギー管理課」までご連絡ください。

問合せ先：環境・エネルギー管理課 TEL：06(6879)4883 E-mail：kankyoku-kikaku@office.osaka-u.ac.jp
ホームページ：http://www.eem.osaka-u.ac.jp/HP/

50 阪大NOW 2015.1 / No.143

阪大NOW 2015.1 / No.143 51

大阪大学の広告を日本経済新聞に掲載しました

(平成26年12月28日(日)、29日(月) 朝刊 全国版)

阪大なら実現できる。
世界トップ10の研究型総合大学を。

平野俊夫

3位じゃ ダメなんです。

適塾 から 世界適塾 へ
GLOBAL UNIVERSITY

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

22世紀に輝く 世界適塾
World Shikoku

2031 = 創立100周年

大阪大学

世界トップ10の研究型総合大学

調和ある多様性を創造し 世界のトップ10、目指す

2031年に向けた
TIME SCHEDULE

- 2024 世界トップ30の研究型総合大学へ
- 2023 国際ジョイントラボも100施設に
- 2021 世界適塾ビレッジ
- 2020 世界適塾大学院 設置
- 2017 世界適塾大学院 設置
- 2015 世界適塾大学院 設置
- 2014 世界適塾大学院 設置
- 2011 世界適塾大学院 設置
- 1931 世界適塾大学院 設置
- 1838 世界適塾大学院 設置

適塾 から 世界適塾 へ
GLOBAL UNIVERSITY

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

22世紀に輝く 世界適塾
World Shikoku

大阪大学 NewsLetterの最新号を
発行しました。是非お読みください。

「大阪大学 NewsLetter 66号」

総長と若手研究者との対話、糸谷哲郎竜王のイン
タビュー、アメフト部の躍進記事など掲載しています。
(広報・社会学連携オフィス広報課)



大阪大学も いいね!

阪大の公式Facebookページでは旬なニュースや学内風景をお届けし
ています。『いいね!』をクリックして「いま」の大阪大学をご覧ください。

www.facebook.com/OsakaUniversity



大阪大学未来基金
“創立100周年ゆめ募金”
にご協力ください

大阪大学は「創立100周年、世界トップ10、
未来基金100億円」を目標として、“創立
100周年ゆめ募金”を開始しました。

【問い合わせ】

大阪大学基金室

TEL: 06-6879-8327/FAX: 06-6879-4337

Email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>



阪大NOW 2015.1/No.143

2015年1月発行

編集: 大阪大学広報・社会学連携オフィス

デザイン: 大阪大学クリエイティブユニット

発行: 大阪大学広報・社会学連携オフィス広報課 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせにつきましては、email: ki-kousyagaku-kouhou@office.osaka-u.ac.jp までお寄せください。

次号(No.144)は2015年4月に発行予定です。

バックナンバーは、本学公式ウェブページ(www.osaka-u.ac.jp)からご覧いただけます。

大阪大学Facebookページ(www.facebook.com/OsakaUniversity)も随時更新中です。



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY